

至誠無息
堅忍不拔



創立明治33年(1900)
開校明治34年(1901)
神奈川県第二中学校



神奈川県立小田原高等学校同窓会 榎友会会報

題字:大島修穂(雅文)さん(高32) 背景:榎林と上庭の写真

第30号

神奈川県立小田原高等学校
同窓会 榎友会

発行者 会長 津田憲一郎
編集者 広報委員会
委員長 奥津晋太郎

住所 〒250-0045
小田原市城山3-26-1
電話・FAX 0465-20-3281
メールアドレス
kenyukai@odako.org

2019年度 榎友祭 (小田高ホームカミングデー) / 総会

期日:2019年5月12日(日) 会場:小田原高校

榎友祭 (小田高ホームカミングデー): 各校内施設
同期会やクラス会、部OB会などの同時開催を歓迎します。
同窓会総会: 視聴覚教室

※上記は現在計画中です。確定次第、榎友祭のホームページ
(<https://odako.info/>) でお知らせします。



写真は平成30年度の榎友祭の様子

母校に帰る日

総会・榎友祭 (小田高ホームカミングデー)

5月13日、総会・榎友祭(小田高ホームカミングデー)を開催。高20同窓会の企画による「講演会」と「コンサート」を中心に、グループ参集企画に今迄で最も多くの参加があるなど、約500名のご来場で一日賑わいました。



受付風景

◆卒業の節目を祝う…開会式

開会式では全員で校歌斉唱。卒業の節目を迎えられた期(高10、20…)の方々に記念の小田高絵葉書を贈呈。小清水常任幹事(高10)に代表して受け取っていただきました。



小清水氏と津田会長

◆功労者表彰も…同窓会総会

津田同窓会長(高20)と反町校長の挨拶に続き、長年にわたり役員を務められ退任された前会長・小野康夫(高13)氏と前副会長・唐崎知子(高19)氏を表彰。引き続き栗原博(高20)氏を議長に選出。4月21日に開催した常任幹事会の審議結果(29年度会務報告・事業報告、一般会計決算、財産台帳・会計監査結果、30年度事業計画・一般会計予算、常任幹事会議事録)について会長から報告。翌年の総会開催日を決定して終了しました。



同窓会総会

◆午前中に開催…八幡山トーク

総会に引き続き八幡山トークとして、講演会を開催しました。



スクリーンを使って

講師は朝倉哲郎氏(高20、東京農工大学工学部 特任教授・名誉教授)。テーマは「絹による人工血管、再生医療材料の研究開発」について。たまたま、現在小田原高校で化学の教鞭をとっておられる杉本先生が東京理科大学理学部化学科・今村研究室出身で朝倉氏の後輩に当たり、現在も交流をお持ちですので、杉本



朝倉氏

先生に朝倉氏のプロフィールを紹介していただき、スタートしました。

最先端の再生医療材料として注目されているテーマについてわかりやすく講演していただきました。午前中に開催するのは初めての試みでしたが、運営上は、お昼休み以降のスケジュールに余裕ができて、好ましいパターンと感じました。

◆音楽を堪能…八幡山コンサート

昼休みを挟んで、午後は高20のもうひとつの目玉企画、斉藤秀次(高20)氏が所属する「キヨシ小林 with ウクレレオーケストラオブジャパン」のコンサートをを行いました。ウクレレといえばハワイアンのパンドを思い浮かべますが、そのイメージとは全く異なるウクレレのビッグバンド演奏で大いに盛り上がりました。

◆校史ガイドが説明…校史展示

養成講座を修了した「小田高校史ガイド」9名が、校史展示室で開催した新制高校実施70年記念の企画展「神奈川県立小田原高等学校の発足」と教材展示室の説明を担当。66名の来場でした。



桜吹雪のパフォーマンス



キヨシ小林氏と斉藤氏 (高20)



珍しいウクレレのオーケストラ

◆**同窓生の活躍を紹介：パネル展**
 各界で活躍する同窓生を第一会議室でパネル展示。前年の7氏に加え、本年の講演会講師・朝倉哲郎氏(高20)、東京農工大学名誉教授、核磁気共鳴NMR構造解析、絹の基礎と応用、漫画家・真船一雄氏(高35)、「K2」、「ウルトラマンストーリーO」、主婦から起業された福井康代氏(高36)、「株ナビット代表取締役」を展示。パネルは小田高祭でも展示し、その後、母校のエントランスホール内の同窓会展示コーナーで毎月1名を展示しています。



熱心な来場者も

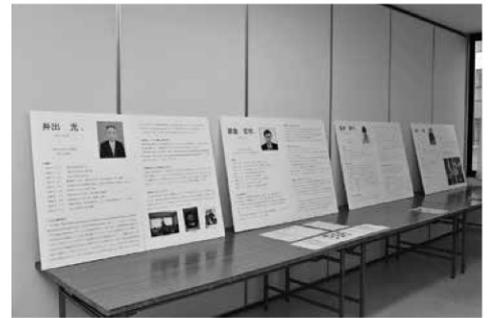
◆**本年も公開：窓梅会資料室**
 小田原高校南館3階入り口にある城内高校同窓会・窓梅会の資料室を本年も公開していただきました。窓梅会の役員4名に常駐していただき、来場者に説明していただきました。

プログラムは、「百段坂物語」(平21)、「樹叢」(平23)、「鎮遠の鐘」(平24)、「櫻々伝統とシンボル」(平25)、「道々 Where to go My way」(平26)。



懐かしい映像も

◆**放送部制作作品祭**
 放送コンテストに出品するため、21年から放送部が制作した作品を第一会議室で放映。



活躍する同窓生パネル展



高11公開講演会

◆**盛況：グループ参集企画**
 同期や部活の仲間が集うグループ参集企画。本年は高5・11・19・20・21・23・29・31・32・39各同期会、柔道部OB会「櫻柔会」、「比奈の会」、「小田原理想協会」、「Facebook小田高会」が参加。公開講演会、作品展+コンサート、教室内ワークショップなどが活発に行われました。



図書室を見学

◆**恒例の：キャンパスツアー**
 毎年人気のキャンパスツアー。今回も多くの方が参加し、熱心に校内を見学しました。

準備段階から、メイン企画や運営の中心を担う高20同期会を前年度担当の高19同期会と次年度担当の高21同期会が支援。当日の運営には高32同期会や湯河原地区小田高会からも応援をいただき、協力の輪が広がりました。
 ご協力をいただいた母校と校内幹事の皆様、広告にご協賛いただいた皆様、そして準備の段階からご協力いただいた関係者の皆様、厚く御礼申し上げます。

桜友祭実行委員長

蛭田克美 (高15)



講師も歓談

◆**例年通りの賑い：恒例の催事**
 模擬店は「東華軒」、「だるま」に「セキグチベーカーリー」。ティーパーティーには昨年を引き続いて高32同期会が手作りのクッキーを提供。講演会の講師も加わり歓談。全員で「冠たる伝統」と「校歌」を斉唱。あつという間の一日でした。

年度の企画
次年メイン

高21同期会が 講演と音楽催事を計画

新元号となる次年度の樫友祭(小田高ホームカミングデー)は5月12日(日)に母校で開催します。卒業50周年を迎える高21同期会がメイン企画の準備を進めています。今回は目玉が二つ。講演「八幡山トーク」と音楽催事「八幡山コンサート」です。

八幡山トーク

名古屋芸術大学芸術学部教授・茂登山清文(高21)氏の講演。

タイトルは「見ることの悦楽―老いの途上で」。



茂登山清文氏

以下、茂登山氏のメッセージです。

「老人力」という言葉が、20世紀末に流行った。それは「テキスト」つまり「反努力」だと、その仕掛け人、赤瀬川原平は言う。彼の活動は、前衛芸術から漫画、小説家、路上観察、ライカ同盟と実に幅広かったのだが、根底には、いつも「見ること」があっ

た。とすると、「テキスト」に見るのも、老人の特権、悪くなさそうだが、当たり前なことだが、人は老いる。時に眼の病にかかるし、そうでなくとも、まちがいなく視力は衰える。むろん、それは「見えなくなる」ということを意味するわけではない、あなたが悲観すべきことがらでもない。モネが、晩年、白内障を患うなかで、かの傑作《睡蓮》のシリーズを描いていたことは、よく知られている。そう日本でも、齢八十六にして、力溢れる《怒涛図》を描いた葛飾北斎がいた。どうやら、年老いてこそ、見えてくるものがあるようだ。ギリシアの哲学者プラトンは、自由人の生涯学習プログラムを、こう説いた。教養諸学を修め、公務に就いて経験を積んだ後、50歳になって、最高の原理たる「善のアイデア」の認識に到達し、国務にあたることのできるという。男の平均寿命が44歳といわれた時代のことである。今日、未踏の長寿社会にあって、私たちには、これから先、思っていた以上に長い道のりが残されているらしい。そして、その途上、あたりに目をやれば、限らない視覚世界が広がっているのである。先人たちの見る力、「テキスト」に見る力を紹介しながら、その悦びと楽しさについ

て語ってみよう。

◆茂登山清文氏プロフィール

京都大学工学部建築学科卒業、同大学院博士課程建築学専攻満期退学。1984年から98年、名古屋芸術大学美術学部でデザイン教育にあたった後、2016年まで、名古屋大学大学院人間情報科学研究科・情報科学研究科・情報文化学部で研究・教育に携わる。現在は、名古屋芸術大学芸術学部教授。2017年4月に開設された芸術教養領域を担当。専門は視覚文化と情報デザイン。特にヴィジュアルリテラシーと空間性。

八幡山コンサート

内藤和正(高21)氏がナビゲートする、「ジャズンべーよ」Talk & Live



内藤和正氏

以下、内藤氏のメッセージです。

◆はじめに

「少し高く見えるジャズの敷居をなるべく簡単に跨げるお手伝い」をさせて戴き「違和感や解かれないの要因がどの辺から来るのか」をも掘

り下げながら、少し身近な音楽として皆さんが体で感じ音を楽しんで貰える機会を作ろうというのが趣旨で中には「今更聞けないジャズ」という方が、この機会に「そうだったのかジャズ!!」てな具合になれば、これもまた本望であります。

◆ジャズってどうなるの

ジャズが「跨ぎ難い敷居の高さ」を感じさせ、他の音楽とは違った感覚を醸す最大の要因は「スウィングする[Swing]というビート感覚で、この音楽が持つ「躍動感」や「ノリ」といわれる唯一無二な感覚の源泉です。一体スウィングという感覚は何処から生まれて来るんだろう?という疑問を、ここでは楽典と「Live」による実演とで解いて行きます。

また奏者の自由な解釈で自分流の固有な表現が尊重されるジャズ音楽において、そのコアとなる手法、要素がアド・リブと言われる即興演奏(Improvisation)です。この行為が基本的な約束(縛り)を基に展開されることを、同じく楽典と「Live」による実演とで確かめましょう。

◆ジャズってどの様に演るの

ジャズ音楽のコンセプトに基づいた代表的な曲を「Live」による実演で体感してみましょ。

今回は*塩田眞理子*(ヴォーカル)+阿部紀彦トリオをフィーチャーし、ジャズスタンダードからラテンナンバー、ポピュラーソングまでをカバーし、出来るだけ聴き易い選曲を心掛けます。



塩田眞理子+阿部紀彦トリオ

このバンドは正統派モダンジャズのスタイルをとり、レパートリーは幅広く、パーサタイルに熟し、良クスウィングしています。このメンバーでの活動は小田原(東通りSUN)での月一度のライブ演奏だけで、普段は個々に東京や横浜のライブハウスで活動しています。内藤氏から、「ジャズ道楽への軌跡」をお知らせいただいています。ここでは省略。今後、チラシなどで紹介しますので、ご期待ください。

◆内藤和正氏プロフィール

静岡大学工学部工業化学科卒業。田中貴金属工業(株)入社。電子工業用貴金属材料の新規製品開発業務に長年携わり、現在、常任顧問。

◆*塩田眞理子*+阿部紀彦トリオ
ヴォーカル・*塩田眞理子*、ピアノ・阿部紀彦、ベース・江上友彦、ドラムス・中屋啓之

高21同期会の企画を楽しみに、樫友祭にお出かけください。

樫友祭実行委員長

蛭田克美(高15)

「桜めぐりと花見の宴」

第4回 榎友ウオーク

榎友会の新しい親睦事業としてスタートした榎友ウオーク。

よく知っているつもりでも、実際に歩いてみると必ず新しい発見があります。

今回は南足柄の山・里をめぐり、ソメイヨシノより少し早く開花する「春めき桜」を堪能。最乗寺などを見学し、ウオークの後は有志が「幸せ道」下で花見の宴を行い歓談し、大いに盛り上がりました。

好天に恵まれた3月17日に、同窓生の家族や友人も含めて22人とワンちゃん一匹が参加しました。

午前9時に大雄山駅に集合し、南足柄市で観光ボランティアガイドをされている澤長生（高18）さんと中川宣雄（高18）さんの案内で二組に分かれてスタートしました。

コースは、「天狗のこみち」経由で大雄山最乗寺へ↓大下駄のある御真殿まで登ったのちに本堂付近で昼食↓その後、「天雄紅桜」が咲く「花咲く里山」経由で狩川堤防へ↓解散。以下、当日の様子を写真で紹介いたします。

◆まず「関本の由来」

集合場所の大雄山駅前、関本の由来を聞き、南足柄地区の歴史に興

味をそそられました。



説明する澤さん

◆熱心な説明が続きます

ウオーキングの道すがら、要所所で説明が入ります。



中川さんの説明

◆二十八宿道標を見る

「天狗のこみち」のあちこちに見どころがあります。



二十八宿道標

◆ワンちゃんも境界門へ

大雄山最乗寺の境内に入って階段が多くなります。



境界門

◆満開の「はるめき桜」

狩川堤防は両側とも見事な春めき桜が咲き誇っていました。



◆花見の宴

近くのスーパードから飲み物や焼き鳥などを調達し、河原で歓談しました。



満開の春めき桜



花見の宴

丁寧にご案内いただいたガイドのお二人、手作りサンドイッチやゴミの後片付けにご協力いただいた佐々木淑子（高18）さん、当日の写真を提供していただいた小野康夫（高13）さん・佐野益夫（高19）さんに感謝いたします。

交流委員会

NHK大河ドラマ「いだてん」と小田高

2019年NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公・金栗四三は、大正元(1912)年に日本が初めて参加したストックホルム・オリンピックにマラソンの日本代表選手として出場した。その後、箱根駅伝を発案したり、福岡国際マラソンを開催したりするなど「日本マラソンの父」と呼ばれている。

金栗さんが東京高等師範学校(現筑波大学)に在学し、徒歩部(現陸上競技部)で先輩たちを熱心に指導していたとき、2年後輩に神奈川県立第二中学校(現小田原高校)を卒業した渋谷寿光先生(中7)がいた。渋谷先生は金栗さんとともにマラソン選手として評判を博し、全国陸上競技大会等に入賞した。

大正7(1918)年、渋谷先生は東京高等師範学校を卒業すると、物理化学の教諭として県立小田原中学校(現小田原高校)に赴任した。化学を閑院宮春仁王殿下(中16)にお教えするとともに、徒歩部の指導に熱心に取り組んだ。先生が徒歩部を担当すると、部員たちは活気づき、部員数は60名を数えた。先生はまだ若く独身で、小田原の唐人町(現浜町)に下宿していた。後に参議院議長となる河野謙三(中15)たちは「よい先生が来られた」と毎日放課後、先生の下宿に押しかけた。そこで着

替え、先生を先頭に国道1号を国府津まで往復約20km走った。金栗さんは何度か小田原中学校を訪れ、部員たちといっしょに走り、直接いろいろな指導をした。大正7年10月には講演会を開き、全校生徒にマラソンの経験談や技術について詳しく話した。

「いだてん」で箱根駅伝創設の由来が放送されるが、金栗さんは大正8年、世界に通用する長距離ランナーを育てるため、アメリカ大陸横断駅伝を発案した。そのための選手選考会として箱根駅伝の開催を提唱し、2年後輩の渋谷先生がその企画の実務を担当することになった。先生はコース・中継点について、一人で歩いて距離を測った。土木の業者が使う大きな巻尺を使った。特に小田原



東京高等師範学校の徒歩部選手たち
後列右が金栗さん、前列中央が渋谷先生

から箱根の山道を測るのは大変だった。小田原中学校の徒歩部の部員たちと地元の人たちが手伝い、提灯をつけて照らしながら夜までみんなで測った。全区間を5区間に分け、一人平均20kmで2日間とする東京・箱根間のコースを設計した。

翌大正9年、いよいよ箱根駅伝第1回大会が実現した。出場校は10名の選手をそろえることのできた東京高等師範学校、明治大学、早稲田大学、慶応大学の4校。期日は2月14日の土曜日。午前中は選手が大学の講義を受けなければならないので、スタートは午後1時とした。金栗審判の発声によりスタート。小田原の小伊勢屋旅館の第5区中継所に明治の先頭ランナーが到着したのは、日が暮れた午後6時30分だった。箱根の登りは砂利道で、真っ暗な中を走ることになる。渋谷先生は小田原中学校の徒歩部の上級生たちに松明を持たせて配置し、コースを照らした。そして選手がコースをまちがえないように、宮ノ下から芦ノ湯まで、徒歩部の部員たちを伴走させた。先頭ランナーがゴールに飛び込んだのは、午後8時30分だった。

大正時代、世の中の雰囲気、競争して自分の会社もうけることばかり考えるようになっていった。渋谷先生は「学生が社会に出て自分の



大正11年、県下中等学校駅伝
競走優勝 右端が渋谷先生

ことばかり考えるようになってはいけない。みんなで力を合わせて仕事をしないといけない。駅伝で一つの仕事をするを訓練する」とよく言っていた。先生は昭和55(1980)年まで60年間にわたり、箱根駅伝審判長を務めた。

また、渋谷先生は近代オリンピックを創始したクーベルタン男爵の「世界中の若者が損得なしに集まって、仲良く理解し合わなくてはいい」という考え方に賛同した。昭和7(1932)年のロサンゼルス・オリンピック日本選手団役員、昭和11年のベルリン・オリンピック陸上競技総監督を無償で務め、昭和15年の幻の東京オリンピック開催準備に取り組んだ。

「いだてん」の後半は昭和39年の東京オリンピック開催を扱うが、先生は東京オリンピックのマラソンコースを調査し、審判団団長を務めた。表彰式でメダル



昭和30年、金栗さんの還暦のお祝い
前列中央が金栗さん、左隣が渋谷先生



東京オリンピック審判団
解団式の渋谷先生

を運ぶ係は、経費節減のため、大会役員の娘たちが和服を着て行うこととした。先生の次女は、マラソンの円谷幸吉選手に銅メダルを渡した。先生は昭和58年に88歳で亡くなるまで、日本陸上競技連盟の役員を務め、何度もオリンピックを視察し、陸上競技の審判技術と大会運営の発展に尽くした。

次ページは小田原高校卒業生の箱根駅伝出場選手

小田原高校卒業生の箱根駅伝出場選手一覧

Table with columns: 卒業回数, 氏名, 大学, 大会, 年, 戦績, 備考. Lists athletes like 河野 一郎, 河野 謙三, 牧野 博, etc.

※戦績は関東学生陸上競技連盟・読売新聞社による。

3 その他
事務局員の複数化に向けた取り組みを進めるとともに引き続き、各種役員に多くの女性が参画するように呼びかけていく。

1 活動目標
(1)同窓会事業への会員参加の促進
(2)同窓会名簿の作成
2 委員会の活動
各委員会の事業計画については省略します。

30年度 事業計画
櫻友会 (同窓会) からの お知らせ ①

平成30年度予算 (単位:円)
Table with columns: 収入の部, 支出の部, 予算額, 前年度予算額.

平成29年度決算 (単位:円)
Table with columns: 収入の部, 支出の部, 予算額, 実績額.

資産の状況 (平成30.3.31現在) (単位:円)

Table showing assets: 1 基本金, 2 記念事業積立金, 3 名簿会計積立金, 4 一般会計保管金, 資産計.

*総会で報告された予算・決算書をお知らせいたします。

詳細はホームページをご覧ください。

校歌・応援歌を在校生とともに声高らかに斉唱

第13回 青春かながわ校歌祭に参加

校歌祭委員会委員長 渋谷賢一 (高17)

10月21日
26校同窓会が集合

抜けるような青い秋空の21日、初参加の柏陽高校を含め神奈川県立高校26校（昨年と同数）の卒業生が、在校生と一緒に母校の校歌・応援歌を斉唱する「青春かながわ校歌祭」が横浜・紅葉ヶ丘の県立青少年センターにおいて開催されました。我が小田高同窓会は、初回以来13回連続の参加。「校歌祭」は、「かながわ校歌振興会」の主催、県教育委員会の共催のもと、実行委員会を設置し開催されています。今回の実行委員会は、保土ヶ谷区の商工高校雄飛会が中心。

26校の出演者総数は、卒業生1525名、在校生487名、教職員等122名の計2134名。1校平均82名。因みに、昨年（第12回）の出演者総数は、2375名でした。

榎友会員と在校生が参加

これまでと同様に、小田原から大型バス2台と会場に直行した会員59名、在校生・教員29名、合計88名が参加しました。昨年の参加会員数は98名でしたので、少々寂しい思い



大応援と一緒に演奏

です。（参加者の内訳は、下段に記載）

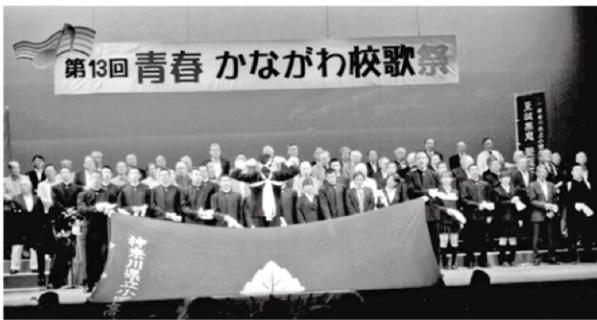
参加する在校生は、応援団OB有志の指導のもと、小田高武道館に於いて8月と9月に2回練習を行い、榎友会員以上の習熟度となりました。当日は、津田憲一郎会長（高20）

と県高野連でも活躍する反町校長をトップに、応援団OB有志と校歌祭委員の誘導のもと在校生の剣道・野球部員、そして榎友会員が校訓の「至誠無怠」「堅忍不拔」を染めた手拭を鉢巻にして肅々と参加しました。

校歌・応援歌を
整然と元氣よく斉唱

榎友会は、第一部6番目にCDの「逍遙歌」が静かに流れ、学校紹介をバックに、出演者は「逍遙歌」を口ずさみながら舞台上に進み4列に整列。今回も応援団OB及び剣道部員のリードにより大太鼓の響きにつれて会員と在校生が声を合わせ、元氣よく且つ整然と歌い上げました。

歌った曲は、前年と同様に、応援歌の「天が下る」（天正13年作）、「冠たる伝統」（昭和22年発表）と「コチャエ節」（昭和15年頃作）、校歌（昭和3年制定）の4曲です。3曲目の「コチャエ節」では、校歌祭の名物ともなっている出演者全員が肩を組み列毎交互に左右に身体を動かしながら熱唱しました。



ハチマキの手拭を右手に持ち「校歌」斉唱

キリンビール横浜工場
（横浜市鶴見区）を見学

出演終了後、会員43名が鶴見区生麦にあるキリンビール横浜工場の見学をしました。キリンホールディングス（株）代表取締役社長の磯崎功典（高24）氏のご配慮もあり、ホップ・素材から生産工程等を係員から丁寧な説明をしていただくなど厚遇されました。

見学終了後、ビールの試飲があり、もちろん一番搾りで打ち上げも兼ねて乾杯するとともに、出来立てのビールのうまさを堪能しながら校歌祭の出来栄えに大いに盛り上がりました。



キリンビール横浜工場

参加高校一覧 （出演順・同窓会名略）

（第一部）
横須賀大津高校／港南台高校／吉田島高校／麻溝台高校／新城高校／

小田原高校／平塚江南高校／平塚農業高校／厚木東高校／光陵高校／厚木高校／横須賀高校

（第一部）

鶴見高校／秦野高校／横浜立野高校／横浜平沼高校／逗子高校／湘南高校／柏陽高校／追浜高校／川崎高校／横浜翠嵐高校／横浜緑ヶ丘高校／希望ヶ丘高校／神奈川工業高校／商工高校

榎友会員・在校生参加者数 卒別等一覧

★榎友会員（単位・名）	計59名		
（高4）	1（高5）	1（高7）	1
（高8）	6（高9）	7（高10）	8
（高11）	2（高12）	1（高13）	13
（高14）	2（高15）	1（高16）	1
（高17）	1（高19）	1（高20）	2
（高22）	1（高23）	2（高24）	1
（高25）	1（高26）	1（高27）	2
（高30）	1（高36）	1（高37）	1
★学校関係			計29名
（教員）	4（剣道部員）	2	
（野球部員）	23		
★合計88名			

次回（第14回）も横浜で開催

日程 2019年10月12日（土）
場所 県立青少年センター
（西区紅葉ヶ丘）

実行委員長選出同窓会
鶴見高校鶴陵会

来年も多くの会員の皆様と一緒に歌えること、そして親交を深められますことを楽しみにしています。

第9回 小田高自然環境フォーラム

講師陣がみせた豊富な話題

校長先生も登壇

6月17日母校小田高の集成館ホールで第9回自然環境フォーラムが開かれた。

タイトルは『見つけた！自然の魅力』。その内容を紹介する。

ヒマラヤの空は碧かった 勉強好きな子どもたち

(原題：ネパールの教育と生活)



講師① 反町聡之校長先生

講演のトップは小田高校長の反町聡之先生。第9回フォーラムのポスターにも、世界の高峰ヒマル・チュリをバックに颯爽と登場している。先生は約30年前、ネパール王国で2年間、青年海外協力隊の理数科の教員としてボランティア活動をした。ゴルカ都ナレソール村のビンデバシニイー学校。首都カトマンズからゴルカ・バザールまでバスに揺られ約10時間、さらに急峻な山腹を歩いて2時間。電気、水道はなく、子どもたちは電車や自動車も見ることが

ない、文明から切り離された山奥だ。到着して現地の校長に挨拶。では明日から…と言われ、大慌てで英語担任の先生宅に下宿した。村でいう峠の茶屋の近くだ。電灯はない。夜は星空の下となる。部屋で寝ていると、家畜を狙うコヨーテの群れの遠吠えが聞こえる。すると家族が起き出して一斉にウオーツと、遠吠えで返す。寝袋を担ぎ体力との勝負のネパールでの教員生活が始まった。

「勉強したい人と教える人がいる、それで教育は成り立つ」

反町先生の活動開始は昭和63年、ネパールにはまだ義務教育制度はなかった。小学校4年までの授業料は無償。教科書は有償だ。だから兄弟で使い回しをしてポロポロ。小5年生になると家事労働に駆り出されて登校する生徒は減る。でも険しい山道を1時間歩いてくる。「学校のほうが楽しい」と言う。黒板やノートのあるなしではない。「そこに勉強する子どもがいれば、教育は成り立つ」。このときそう思った。

「ネパールの学校の先生たち」

この国では、校長は大卒の資格が必要だが、一般の先生は高校1年修了でなれる。その先生方と腹を割っ

て色々話した。当時、中国の毛沢東思想は秘密結社だった。それでもその政治信条を熱く語ってくれた。ネパールでの後半の生活では更に奥地に入り、小学校の理数科教員の養成協力を行った。



赴任先ネパールの学校の先生達

「教室を造ろう。窓ガラスはインドまで買い出し」

反町先生は、最初、ナレソール村で学校の理科教室を造った。ODA（政府開発援助）事業だ。教室の窓にはガラスがない。冬は寒風対策で窓は小さい、暗い。寒い。窓ガラスはどこで買うのと聞くと、国境を越えたインドだという。それでは、と5日ばかりで現地の先生と2人でインドまでガラスを買いに出かけた。重かった。学校の校庭には夏の日陰用に、大きな菩提樹が必ずあった。子どもたちはそこが集会場になる。

「母国語をしっかりと話せることが勉強なのだ」

反町先生のネパール語教師は子ど

もたちだ。夢も現地語で見えるようになった。教員仲間との話で気がついた。母国語をしっかりと話せない、外国情勢の理解はままならない。これを教訓に、小田高の生徒には、母国語を大切にすることが勉強の基礎になると指導している。

この日、反町先生は未公開の現地写真を大量に紹介した。



目が輝いているネパールの子供達



山野を楽しく歩こう、 その知識・植物編

(原題：楽しく歩く―植物豆知識)



講師② 上妻信夫さん

箱根・湖尻のビジターセンターを拠点に観察活動をする自然公園財団の上妻信夫(高15)さん。箱根をより楽しく歩きましょう、と様々な植物の写真を携えて登場した。

最初の問いかけは「目の前の植物の名前、どうして付けられたでしょうか?」。ラテン語で付いているのは世界共通の名称、日本語の名前は標準和名という。そして地域で呼ぶ名前もある。会場のスクリーンに、タムラソウが投影された。ナツノタムラソウも、アキノタムラソウもある。なぜ3つもあるの?この日の話題はここから始まった。(植物の写真はインターネットで検索してみてください)

「植物の名前は、かなりいい加減?」アケビの写真を紹介。何でアケビなの?ムベという植物がある。その実が中々開かない。やがて二つに裂ける、開ける…アケビとなる。「学

者に怒られるかもしれないが」と断り、植物の名前はいい加減に付けられていると事例をあげた。人と関わり強い植物は昔から名前が付いていて、新しく見つかるものは発見者が付ける。植物は特徴を覚えたと、イッパツで覚えられる、と上妻さん。

「気の毒な名前前の植物たち」

ウバユリ。何で乳母なの。乳母はお年寄りが一般的で、歯(葉)がない、だからだ…。

又スビトハギ。この植物の実は歩く人のズボンに勝手に付いてしまう。だから、ドロボーハギともいう。ハキダメグク。植物学者が最初に発見した場所が掃きだめだった。だから…。

ヘクソカズラ。最初に採取されたとき、屁クソの臭いがした。だから…。ヤイトバナ。お灸をすえると皮膚がヤケドして醜くなる。その痕に似ているから。

「イヌヤウマの名が付くと食用にならない植物」動物の名前がアタマに付くとあまりよくない。ツゲがそうだ。女性が髪をすく櫛や印鑑の材料になる植物だ。木質はきめ細かい。でも木質がザクザクで商品化できないものもある。イヌツゲだ。香辛料のサンシヨ(山椒)も、イヌザンシヨ、カラスザンシヨは食用にならない。

「嫌な名前前の植物たち」ママコノシリヌグイ。葉っぱを触ってみるとトゲトゲしている。継子イジメで、この葉でお尻を拭いてや

ると痛がつて泣く。だから…。ムカゴイラクサ。これもトゲトゲがある。葉っぱを触ると細かいトゲが付いて取れない。イライラする、イライラく。

「目で迷ったら、この草を辿って…」山でよく目に付くのがオオバコ。人が歩いた後に必ず生えてくる。この草が列で並んでいる方向に歩けば、間違いなく人里にたどり着く。

「味覚や聴覚、嗅覚など五感の植物名」エゴノキ。実を噛んでみるとエグイ。溜め池の小魚が気絶して浮き上がってくる。

ウラシマソウ。こんなにやくの仲間だが、根芋は辛くて食えない。山が真っ赤に彩られるカジカエデ。クサギは匂いが好き嫌いの半々に分かれる。

ゴマ油のような匂いはゴマギ。タケニグサは竹とは違うが、揺さぶるとサラサラと竹林を風が渡るような音がする。

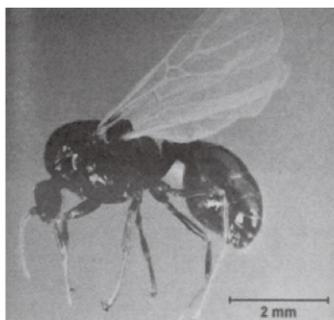
ヒアリ談義

世界のアリ博士、近藤正樹(近藤蟻蜘蛛研究所・白梅短大名誉教授高5)さんの登壇だ。「きょう関西で大量のヒアリが見つかった」と司会者が紹介すると、「みなさん、刺されても死ぬ心配はありません。騒ぐのはジャーナリストの誇張です。いつもながらの、近藤節、でヒアリ談義は始まった。



講師③ 近藤正樹さん

「アリの現状、どうなっているの?」ヒアリの種群は、世界に約260種。このなかで厄介なのが「Red important fire ant」という種だ。1930年代、アルゼンチンやブラジルから船便で米国に上陸。フロリダ州モービルから同心円状に北のヴァージニア州にまで広がった。この拡散は物流に伴っている。日本上陸は中国経由といわれる。日本には米軍基地がある。日米地位協定で米軍関係者や貨物は直接入国して検疫もない。気をつけなければならない地点だ。



これがヒアリだ

「ヒアリって、どんなアリなの?」体長1.6ミリから5ミリの茶褐色のアリがそうだ。お腹に二つの節がある。分類ではフタフシアリとい

う。十節の触角をもち、時にはシヨック死までひき起こす毒素ピベリジンを相手に植え付ける。噛むのではなく、刺すのだ。燃えるような強い痛みが走る。皮膚には白い膿泡が出来る。学名の^{レド}には痛いという意味もあって、日本語直訳で「ヒ(火)アリ」。その命名者は誰か分からない。「ヒアリが棲息する環境は」ヒアリが棲息する気温は25℃から30℃。これを超えると仮眠状態で動けない。日本では冬は気温が下がりが過ぎて死んでしまう。だから繁殖は在り得ないが、都会の地下の温度が冬季でも温かいのが気になる。

「アリの弱点、ブルブル体をゆす(る)」草むらや都会の荒地地に棲息するヒアリ。駆除で殺虫剤を撒く考えもあるが、これだと他のアリや生物、植物までダメにしてしまう。ヒアリの特徴を知っておいて欲しい。彼らはしがみつく力が弱い。滑る素材のところには攻めてこない。草むらで観察する研究者は、ゴム長靴を履き、常に体や足を震わせている。こうすることでヒアリ対応が出来る。

「ヒアリ研究は十分に行われている」研究は米国が主だ。ジョージア大、フロリダ大、テキサス大、農商務省の附属研究機関など。日本や各国の研究機関は後発だが、それなりの知識は備えている。日本でのヒアリ対策は、環境省と文科省が水際作戦でシッカリと対応している。恐れることはありません。

「ヒアリ対策の秘密、教えます」

ヒアリが侵入拡大している台湾や中国。この人たちが日本旅行で密かに買う家庭用のヒアリ対策の商品がある。子どもたちが好きなトンガリコーンだ。どうやら製造過程で使う特定の食用油が、ヒア리를誘引するらしい。ホント？米軍基地周辺にばら撒いてみますか。

標本で生き続ける

自然の姿

（原題：自然財・標本を後世に残す）箱根登山電車の入生田駅。そこから見える堂々たる殿堂。県立生命の星・地球博物館だ。ここで研究と観察指導を続ける同館学芸員の加藤ゆき（東京都立富士高OG）さんが登壇した。出身母校の富士高は、日比谷新宿、西などと肩を並べる都立の進学校だ。



講師④ 加藤ゆきさん

「まずは自己紹介から」

加藤さんは鳥類の生態研究者。「鳥を観て29年。一番好きなトキは沖繩に棲息するヤンバルクイナです」。

中学生の時、ある企業が出した愛鳥ポスターの写真がヤンバルクイナだった。それに魅了されて鳥の世界に入った。このポスターは今も大切に

持っているという。

「博物館、どんなところか知ってる？」

はく製標本が並べてあるところ？遠足で行くところ？雨の日の雨宿り先？確かに雨の日は賑わっている！県立地球博物館の標本など収蔵物は約87万2千点（2018年3月現在）、さらに増え続けている。最も多いのは植物関係で約30万点、次いで昆虫だ。標本の殆どは収蔵庫に保管されている。

「何故、標本をつくるの？」

単に見て観察して貰うだけではない。例えば過去の時代、スズメはいたの？と問われても、書いたものでは証明できない。はく製標本があれば、ある時代の、ある環境での実物証拠になる。未来へ受け継ぐ貴重な財産である。

「小田高のトキはく製、歴史を語る」

会場のスクリーンに、東アジアでのトキ標本の分布図が投影された。日本では新潟県が多い。小田高に保存されているトキのはく製標本は明治45（1912）年制作。分布図と照合すると朝鮮半島で採集されたトキであることがわかる。



小田高に保存されているトキはく製

「標本が語る実物証拠」

県立地球博物館にあるトキの標本は、戦前、丹沢で採集された幼鳥のトキの本はく製だ。県立鶴見高にあったものを移管した。戦前、県立横浜翠風高に置かれていたもう一体は、戦後、同校が米軍に接収された後の火災で焼失した。平成20（2008）年、トキは野生復帰事業で放鳥され、21年8月に佐渡でカラー・マーキングのある羽が採集された。放鳥のトキが翌年夏まで生きのびていた実物証拠。「この写真は私の夫（写真家、重永明生さん）が撮った」と加藤さん。少し照れた。

「はく製標本の寿命は100年以上」

県立地球博物館で最も古い鳥類のはく製標本は、明治39（1906）年スウェーデンで採集されたカラフトライチョウ（仮はく製）。百年以上も保存されてきた。欧米の博物館では、2百年、3百年経っているものが見られる。自然史を語る証拠が生き続けているのだ。

加藤さんは講演の後半、はく製標本の作り方からその作業、保管方法を、パワーポイントを使って話し、

「一緒に自然史の記録を残しましょう」と、会場のみなさんに呼びかけた。



フォーラムに先立って、小田高同窓会極友会の津田憲一郎会長（高20）が「ことしもグローバルな話題が並び愉しみだ」と挨拶。平塚専一副校長は「私は大学で農業土木が専

攻。生態系を守る大切さを学びたい」と、フォーラムにエールを送った。司会は中山和也（高11）さん。フォーラム開催では同窓会交流委員会の支援を受けました。お礼申し上げます。生物部OB会

会長 牧林功（高4）



津田憲一郎会長



エールを送る平塚専一副校長

「お知らせ」

小田高・自然環境フォーラムの第9回開催内容と、各年度バックナンバーはインターネット「しろだも 小田高生物部」で検索、ご覧いただけます。

企画展から

新制高校実施70年記念 神奈川県立小田原高等学校の発足

学制改革と 新制小田原高校の発足

昭和21(1946)年11月、日本国憲法が公布され、翌22年3月には教育基本法と学校教育法が公布された。

これによって中等教育は中学校と高等学校の二段階とされ、6.3.3.4の学校制度が確立し、義務教育は中学校までの9か年に延長された。

まず22年度から小学校と中学校が発足し、23年度から高等学校、24年度から大学が発足した。

新制高等学校は、目的を「中学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、高等普通教育および専門教育を施すこと」とし、旧制の中学校・高等女学校・実業学校を無理なく移行させる形で成立することとなった。

こうした学制改革を受けて、本校は22年度に入学生を募集せず、「小田原中学校併設中学校」を設置し、1・2年生は併設中学校の2・3年に編入学した。

すなわち22年度は、小田原中学校5年・4年、併設中学校3年・2年そして1年なし、という学年編成となった。

先生方は新制高校準備打合せ会、

新制高校生徒調査、教科課程各科目主任会議など、連日のように準備・検討を重ねた。

23年4月1日、校名を「神奈川県立小田原高等学校」と改め、新制高校として発足した。

前年度の5年生のうち希望者が高校3年に、4年生の多くが高校2年に、併設中学校3年生の多くが高校1年に、併設中学校2年生が併設中学校3年に進んだ。

学級数と生徒数は、3年が3学級124名、2年が5学級216名、1年が7学級325名、併設中学校3年が6学級318名、計983名であった。

3年は3学級に編成し、1組が文系で担任は国語の小池年行先生、2組が理系で担任は数学の柏木清造先生、3組が文理系で担任は英語の村岡英太郎先生であった。

小池先生と村岡先生は本校20年以上勤務のベテラン、柏木先生は本校3年目の36歳。1学期の期末試験後、生徒から夏季講習をやってほしいとの要望があった。

柏木先生が教務主任に願ひ出たが、「本校は予備校ではない」とはねつけられたので、数学だけ了解を得て10日間の講習を行った。柏木先生は冬季講習も行い、大学進学希望達

成のため全力を尽くした。

また、4月6日から週5日制の授業が始まった。土曜が休校となったが、週34時間の授業時間は同じであったので、月曜から木曜まで7時間、金曜が6時間となった。

1日7時間は帰宅も遅くなり、夕食後机に向かっても疲れから眠くなるなど大変だった。これは26年6月の土曜講習開始まで続いた。



柏木清造先生

新校章「樫の葉」誕生

23年4月に新制小田原高校が発足すると、創立以来本校生徒の誇りであった「神中」の帽章も改正することが課題となった。

「神高」でよいではないかという意見がかなりあったが、小田原高校となった以上、いつまでも「神」にこだわることもあるまいということになった。

5月頃、美術の湯川治郎先生が中心になって、新しい帽章の図案を職員・生徒から公募することになった。3年生の中野孝治(高1)は、同級の小泉治雄(高1)と同じ演劇部の1年生小野意雄(高3)と3人で図案について話し合い、小野の素描をたたき台として図案を検討した。その素描は、旧制第一高等学校



湯川治郎先生

(現東京大学)の帽章「柏の葉」にあり、本校の職員・生徒にとっても思い出の場所である榊林の「樫の葉」に、白線二条を加えたものであった。

この頃まで、旧制高校を憧れる風潮が教員にも生徒たちにも強く残っていた。そして絵が上手であった小泉が自宅に持ち帰って図案をまとめ、共同制作案として小野が湯川先生へ提出した。

締め切りまでに5、6点の応募作品が寄せられた。その中から「神高」と「樫の葉」の図案が残りに、剣道場に掲示された。「樫の葉」はひときわ注目を集めた。

教員・生徒全員による決戦投票の結果、異論なく「樫の葉」に決定し、全校生徒が集めた中庭で、湯川先生からこの図案の採用が発表された。

8月26日、職員会議で、帽子に白線二条をつけ、あご紐をとることが決定した。浅井誠一校長は全校集会で「新緑のすばらしい榊林の葉のように、誠実ですくすくと育つことを象徴して、樫の葉を帽章と決めた。二本の白線は、神奈川県第二中学校の二を意味し、清純な千余名の生徒が両手で輪(和)をなす団結を意味する」と説明した。

9月2日、新帽章「樫の葉」が白線とともに生徒に配付された。



新校章「樫の葉」

「冠たる伝統」は 新制小田原高校の応援歌

22年秋、生徒たちの中で、翌年4月に新制高校が発足するので、新しい時代にふさわしい明るい感じの歌がほしいという話になり、生徒自治会(現生徒会)が新応援歌を公募することとなった。

まず歌詞を募集したところ、唯一応募したのが5年生の内田雄康(中43)であった。格調高い堂々たる歌詞が掲示板に貼り出された。



内田雄康 (中43)

次に曲を募集したが、締切を一周間過ぎて誰も応募がない。5年生の益田克幸(中43)が、時々

講堂のピアノでジャズを弾き、友だちを楽しませていたことが、担任だった美術の湯川治郎先生の目にとまった。

湯川先生は益田に「うんとバタ臭い(西洋風)のを作っちまえ」と作曲を勧めた。益田はアメリカのカレッシュソングをイメージしたが、歌詞が格調高かったため、たいへん苦労した。

当時の日本は敗戦で全国民が自信を喪失し、アメリカ兵がかつこよく見えた時代で、益田は「しっかりしなきゃ日本がたいへんだ」と、若者たちが絶望の淵から立ち上がろうとする気持ちを込めて作曲した。こうして益田は作曲を引き受けたその日、夜遅くまで書いた。

翌朝、湯川先生のところへ持って行き、作詞と作曲が一人ずつの応募で、そのまま当選ということになった。



益田克幸 (中43)

そして10月10日放課後、講堂で合唱部、5年生の小泉治雄(高1)の指揮、益田のピアノ伴奏により、生徒自治会主催「応援歌入選発表会」で披露された。

「冠たる伝統」の歌詞は7番まであったが、応援指導部(現応援指導委員会)が全校生徒を指導したとき、

わかりやすい1・3番を指導した。これが現在の1・2番である。「冠たる伝統」は、小田原高校発足のため生徒が発案し、生徒が作った小田原高校初のオリジナル応援歌である。

「PTA」の発足

戦時中、校舎は海軍航空技術廠が使用していたので、北館1階の教室は飛行機のエンジンが据えつけられていた。また、陸軍部隊も約180名駐留していたため、運動場の便所まで火薬庫に使用され、空いていた部屋には材料や道具が詰め込まれていた。

このように校舎は荒廃し、窓ガラスは破れ、あらゆる備品や教具が不足していた。

どのようにしたら一日も早く生徒たちに再び十分な教育を行えるのか、先生方と父母の心痛は並大抵のものではなかった。

こうした学校復興を願う父母の熱意が実を結び、昭和21年に「後援会」が結成された。

校舎の修理、教具・教材の整備は、本来県費でまかなうものであるが、戦災で焼失した学校もあったため、県費の支出は困難であった。

そこで後援会は、毎月会費を徴収するとともに、特別な寄付金を募集した。

父母も極端に圧迫された経済状況にあり、集まったお金は血のにじむような貴重なものであった。

当時として大金の10数万円が集まったので、さっそく校舎を修繕し、教室を復旧して、授業に間に合わせるようにした。

その年、アメリカ教育使節団が報告書を提出し、「教育の民主化を進めるには、家庭・学校・社会を結び合わせ、PTA(父母と先生の会)を設立することが望ましい」と勧告した。

同時に文部省が手引書『父母と先生の会』を各都道府県知事へ送り、これによってPTA設立の運動が急速に広まった。

本校では翌22年9月、PTAに関する講演会が講堂で開かれた。講師は東京神奈川軍政部民間情報教育局(CIE)のシュレダー夫人、出席した父母は約600名。

その後、PTA結成について数回の協議が重ねられ、23年1月28日、PTA発会式が挙行された。後援会はPTAの中へ発展的に解消された。

4月1日、PTAも「小田原高等学校PTA」と改称した。初代会長は佐藤謙吉、副会長は浅野庄作、安間喜代、担当職員は譲原嘉市先生であった。

会長・副会長の他に役員はなく、委員会は、計画・庶務・学校施設改



PTA初代会長 佐藤謙吉

善・民主教育促進・文化・厚生・図書室運営の7委員会がおかれた。先生方も父母もPTAという言葉になじめなかった。「PTAとは何か」を勉強しながら、校舎の修理や備品の整備に総力を尽くした。

本来県費でまかなうべき屋根の修繕、窓ガラス、机・イスの修理・補充にいたるまで、PTAが負担し、急を要するものから手をつけていった。そのため会費だけではまかないきれず、バザーを開催したり、特別寄付を行ったりして、資金の捻出に努力した。



校訓扁額

校史展示室から

展示室の公開

本年は新制高校が発足してから70年になります。

企画展「神奈川県立小田原高等学校の発足」を開催し、どのように旧制小田原中学校から新制小田原高校へ移行したのか、どのように新校章「樺の葉」が誕生したのか、どのような想いをもって生徒たち、先生方、保護者の方々が新制小田原高校を築いていったのかを紹介しています。

小田高に新着任された先生方に小田高の歴史と伝統をご理解いただくため、4月2日に展示室をご覧いただきました。9名が来場され、校史ガイド1名と資料委員が説明しました。

新入生への展示室公開は、平成23年度より母校のご理解・ご協力のもと、新入生に小田高の歴史を学んで小田高生としての自覚と誇りを持ってもらうため、4月に展示室をご覧いただいています。この公開は、最も大切な公開行事の一つとして実施しています。

4月9日と11日に担任の先生が自分のクラスを引率され、1年全9クラス、計327名が見学されました。校史ガイド5名が説明し、新入生たちも先生方も熱心にご覧になり、大変充実した行事でした。

樺友祭(小田高ホームカミング

デー)の5月13日は、66名が来場され、校史ガイド9名が説明しました。今年も窓梅会が窓梅会資料室を公開されました。

小田高祭の6月2日・3日は、97名が来場され、校史ガイド7名が説明しました。

1年次保護者懇談会の6月15日とPTA講演会の11月17日は、大多数の保護者が3年間に一度も展示室をご覧になっていないことから、本年も保護者を対象に公開しました。

学校説明会の10月27日と12月8日は、小田高を志望する中学生と保護者を対象に公開しました。

展示室は毎週火曜日10:14時にご覧になれます。土日にご希望の場合は問合せ先までご連絡ください。

「図書展示室」の開設準備

書架3台を5月に設置し、段ボール箱46個に収納していた和漢書を配架しました。

洋装本は0-9の分類番号ごとに配架し、来年度の樺友祭(小田高ホームカミングデー)でのオープンを目指して準備しています。

約2000冊の和漢書には江戸初期の刊本、宋の『文則』、古活字本の『大和物語』、二宮尊徳関係書、伊藤博文の蔵書、今泉六郎獣医学博士の寄贈書等の貴重書があります。和漢書を含む旧制小田原中学校の

蔵書およそ18000冊は、神奈川県立第二中学校の蔵書印を持つ図書が多数あり、収集は吉田庫三初代校長の時代からと推定されます。各教科の教授用参考書をよく揃え、明治・大正時代の中等教育を知る上で価値があります。



洋装本

これだけの旧制中学の蔵書がまとまって存在することが貴重であり、二度の火災、関東大震災、太平洋戦争に遭っており、これらの災害を乗り越え、現在まで蔵書が受け継がれてきたことに大きな意味があります。

鉱物・剥製標本の保存・活用

多目的教材室にあった大量の小田中の鉱物標本と分類棚を、昨年10月までに樺友会室に保存しました。

高9・高11卒業記念品の展示ケースを活用し、教材展示室に常設展示する作業を進めています。

剥製標本は3月、「がんばれ！小田高」応援基金により生物教材室に遮光カーテンを設置し、紫外線から

保護することができました。絶滅したトキ、キタタキ、チョウザメ等のクリーニング・防虫処理を行い、教材展示室に常設展示する作業を進めています。

生物教材室には剥製標本284点、液浸標本303点、卵殻標本30点があり、剥製標本は明治時代のものが91点、大正時代のものが86点もあります。最古の標本はアズマモグラで、122年も前の明治29年に東京で採集されたものです。

また、絶滅種が3点、絶滅危惧種が29点、特別天然記念物が7点、天然記念物が9点もあります。

鉱物・剥製標本も小田中の蔵書と同様に、単に学術的に価値の高いものや現在では入手不可能なものだけが貴重ではなく、標本群全体が明治時代から度重なる災害を経て奇跡的に受け継がれてきた近代中等教育の「歴史的教材」として貴重であると考えられます。



大正13年の鉱物標本

校史展示施設設置校(同窓会)連絡会

この連絡会は、展示室を通して母校の発展に寄与するため、展示室を開設している小田高、横浜平沼高校、横須賀高校の同窓会が協力して24年4月に発足しました。

27年から、保存期間を満了した職員会議録・学校日誌等をどのようにしたら廃棄せず、校内に保存することができると、その方策を検討しています。

昨年8月に県立公文書館を訪れ、廃棄により生じている重大な支障を訴え、説明をうかがいました。昨年10月には県教育委員会行政課を訪れ、深刻な事態を説明し、現状打開策について要望しました。

これらの活動が結実し3月、行政課長から各県立学校長へ「行政文書の適正な保存及び廃棄について(通知)」が出されました。

これは、昭和20年以前に作成された公文書等(具体的には旧制中学の学簿等)を「歴史的公文書等」として保存しなければならぬこと、そして保存期間を満了した職員会議録・学校日誌等を県教委文書管理規則第15条第2項によって校内に保存することができることを伝えていきます。

この通知により、各伝統校が旧制中学の学簿等と毎年作成される第一級校史資料である職員会議録・学校日誌等を校内に保存することが大

いに期待されます。

主な寄贈資料のご紹介

- ・「逍遙歌」楽譜・歌詞のガリ版刷り、体育祭「西重応援歌」ガリ版刷り、児童文化部「月夜の森の広場」人形劇脚本（昭和30年）（内田温雄（高9）様より）
- ・運動会優勝組メダル（昭和10年）、若原正武先生の国語授業写真（昭和34年）、第11回卒業記念「樫の葉」湯飲み茶碗（昭和34年）（下赤隆信（高11）様より）
- ・『小田高新聞』第53号（昭和33年）、第61号（昭和34年）、第63号（昭和35年）、第64号（昭和35年）（澤村英雄（高12）様より）
- ・現代文、古文、漢文、数学、生物、地学、物理、化学、地理、世界史、日本史、倫理・社会、政治・経済、保健体育の教科書等27冊（昭和38年〜41年）（井出光（高19）様より）
- ・『朋友』第69号、横須賀高校百周年記念誌『百年の風』170〜174ページ（ポールデン先生の写真と記事）（朋友会 上田寛様より）

次の資料を探しています！
第1〜6、8、9、12、15、16回小田高祭プログラム、平成15、16年度小田高祭プログラム、大正期と平成期の学習成績通知表など。問合せ先までご一報ください。

資料委員と校史ガイド

募集中！

資料委員は毎月1回、日曜日の午前中に樫友会室（同窓会事務局）で資料に関する打合せ、資料の整理などを行っています。校史ガイドは公開時に説明を行います。ご関心ある方は問合せ先までご連絡ください。

問合せ先

同窓会事務局

☎・FAX 0465-2013281

✉ kenyuikai@odako.org

資料委員会委員長 仮野慎一（高31）

地域・職域同窓会の動き

第28回 小田中・小田高東京会

6月6日、四谷駅前・プラザエフに80名が参集。進行は冲山（高14）、常盤（高43）両世話人。福井康代（高36）氏が「のりかえ便利マップ誕生秘話」～アイデアをかたちにするには？～を講演。



講演する福井氏

反町校長の来賓挨拶に続いて樫友会・津田会長（高20）の音頭で乾杯、会食・歓談。その後、全員が10グループに分かれて熱心に懇親。応援団OB中山（高11）、志村（高20）、星崎（高26）、三氏の指導で応援歌・校歌を斉唱し閉会。
次回は来年6月5日（水）にプラザエフで開催予定。

事務局・蛭田（高15）

湯河原地区 小田高会

本会は、同窓会として会員相互の親睦をはかることは勿論ですが、地域の一団体として、少しでも地域貢献をしていければと、そんな想いで今年も7月7日に海岸清掃を実施しました。好天に恵まれてというより、酷暑の中、焼けた砂浜で汗だくになり、ゴミ拾いを行いました。海水浴の皆さんが、湯河原の海は、水も砂浜もとても綺麗でまた来たいと思ってもらえれば大成功です。約2時間のゴミ拾いの後、反省会兼懇親会のバーベキューとビールの味は最高でした。参加していただいた10名の会員の皆様御苦労様でした。

残念なことに台風12号による高波で、海の家は壊滅的な被害を受けてしまいました。ガレキ撤去のため数日間海水浴場は閉鎖される事態となりました。一日でも早く元の賑やかさが戻ることを願っています。
本校には、小田高運動部OB会連絡会という運動部全体のOB会があります。

す。この様な会は他校には無いよう
で、小田高独特の連携の強さを示す
会と言えます。

私事ですが、8月5日ソフトテニス部OB会の総会があり、この度、会長に就任いたしました。伝統ある軟庭小田高の名を汚さぬよう勤めて行きたいと思っています。皆様の御協力をお願いします。

会長 小澤稔（高16）

富士フィルム樫友会

富士フィルム樫友会の29年度総会は、4月18日富士フィルム神奈川事業所足柄サイトで43名の会員出席のもと開催しました。29年度の活動報告・決算報告と30年度の運営・活動計画を決定しました。また今年度役員改選に当たり新役員体制を提案し原案通り承認されました。

記念講演には、例年とは趣向を変え認知症についての理解を深める、社会福祉法人 小田原福祉会（潤生園）の常務理事（現理事長）による演題「認知症の人にやさしい地域、認知症になっても自己実現できる社会」をお願いし、非常に好評で多くの質問もあり、予定時間を超過してしまいました。
その後、「富士クラブ」にて懇親会を開催し、江木徹彦副会長（高16）の進行で、奥津博新会長（高14）の挨拶から始まり、来賓の小田原高等学校校長反町聡之氏と樫友会会長津田憲一郎（高20）氏よりご挨拶

擲を頂きました。大橋梓(高2)氏の乾杯で懇談が始まりました。宴の進む中で、高橋悦雄(高24)氏の紹介・挨拶、一ノ瀬清武(高6)、田中伸二(高6)両氏による経験談の披露等がありました。和やかに懇談が進む中、津田貞夫(高3)氏による中締め挨拶の後、江木副会長等の指導で「小田原高校校歌」を歌い、閉会挨拶で終了しました。

事務局長 佐野益夫(高19)

小田原市役所 榎和会

小田原市役所榎和会は現在約260名の会員を擁しており、毎年開催している総会は、宿泊と市内日帰りを実施しています。

今年5月25日に「報徳会館」を会場に30年度総会を開催し、新会員3名を含む140名余の参加がありました。

総会後の懇親会では、顧問である加藤憲一市長(高35)、来賓としてお招きした本多高弘同窓会副会長(高26)、反町聡之小田原高校校長、剣持栄県庁小田高会長(高29)にご挨拶をいただき、会員同士の親睦を深めました。

懇親会のメインイベントである大抽選会では、地域活性化の一助となることを目的とした小田原の地場産品、その他豪華家電等を景品として選出し、大いに盛り上がりました。また、こちらも恒例ですが、会の最後には参加者全員で輪になって肩を

組み、校歌を熱唱しました。毎年、総会には若手職員からベテラン職員まで100名超の会員が参加しており、世代を超えて一つになつて楽しい時を過ごしています。

本会は、今後もより一層の交流によって絆を深め、一丸となつて「自ら考え行動する職員」として、市民の皆様へ信頼されうる市政運営に尽力してまいります。

監事 高橋良輔(高60)

県庁小田高会

県庁小田高会では、7月12日に横浜市内で、毎年恒例の総会を行いました。

総会では、来賓としてお招きした津田憲一郎(高20)小田原高校同窓会長、反町聡之校長、岩本明子(高33)教頭、津田富士夫(高30)校内幹事長、府川悟志(高35)小田原市役所榎和会副会長のほか、顧問の杉本透(高24)県議会議員、退職された諸先輩、剣持栄(高29)会長はじめ現役会員をあわせ、約40名の参加者を得て、懇親を深めました。

今回の総会では、20代の若手会員が数多く参加してくれました。高校卒業後の年数が浅いこともあり、会員相互の交流ばかりでなく、ご出席の恩師との思い出話にも花が咲きました。

また、河合雅史さん、二宮良太さん、芳山拓さん(以上高61)、小林竜大さん(高63)、小川芽依さん

川崎萌さん、小菅菜々美さん、柴田侑美さん、若村康平さん(以上高65)の壇上での自己紹介には、参加者一同大変爽やかな気持ちになりました。

会の最後は、全員で円陣となり、校歌、応援歌などを斉唱したのち、浦邊哲(高35)スポーツ局副局長による「フレールフレール小田高」のエンターがあり、大変な盛り上がりの中でお開きとなりました。

近年、総会参加者が固定化しつつあった中で、今回の総会では、同じ窓に学んだ者同士が集い、幅広い世代を「つなぐ」という同窓会本来の姿を取り戻した感がありました。

今回参加してくれた若手会員の裾野が更に拡がり、県庁小田高会がますます活性化していくことを期待したいと思います。

幹事長 高瀬正明(高34)

第26回 八幡山を語る会

秋の名月に合わせて、昨年の10月12日、小田原の「うおがし」で開催され、会員16名中7名、英語の薦野照雄、生物の原田郁生、地学の加藤克美、数学の小嶋勲、国語の吉田耕一、社会の藤田和雄、奥津裕の各先生方が集い、時を忘れて教え子たちの活躍に話が盛り上がりました。

また、国語の坂本規一、社会の大野扶自男、英語の長田勝海、体育の高樫茂義、国語の山西明、数学の本

多裕昭、草柳源治の各先生方も、自治会長やらサイクリングやらで、健康との事、卒業生皆様によるしくとの事でした。写真のように皆元気で



元気に集う!

世話人 奥津裕(中44・高2) 藤田和雄

神奈川県警察 八幡会

八幡会は、神奈川県警察の現役職員及びOBで構成されており、現在、会員は約60名です。例年、12月の第1土曜日に懇親会を開催しています。29年は、12月9日に小田原駅前のお老舗和食店「うおがし」において、23名が参加し、親睦を深めました。

懇親会は、片山真会長(高33)の挨拶に始まり、来賓としてお越しいただいた反町聡之校長先生と吉川伸治同窓会副会長(高23)からご挨拶を頂戴し、乾杯となりました。

錚々たる先輩方を前に、現役職員からは緊張の表情が見られましたが、懇親の場が盛り上がるにつれて緊張もほぐれ、和気あいあいとした雰囲気

気の中で宴は進みました。参加者それぞれが近況を報告し、小田高時代の思い出や警察官として熱き想いを語り合い、世代を超えて、交流の輪が広がりました。

例年、会の終わりには、校歌、天が下しる、冠たる伝統、コチャエ節等を参加者全員で、熱唱しているのですが、弾む会話で予定時間がオーバーしてしまい、今回は校歌のみの斉唱で来年の再会を誓い閉会となりました。

終わりに、県警察の採用試験の受験資格年齢が30歳から35歳に引き上げられました。「あたりまえ」という日常を守り、支える、とてもやりがいのある仕事です。堅忍不拔の精神で一緒に全力を尽くしてみませんか。

中戸川穰(高43)



初代榎葉館

同期会の動き

中43・高1 米寿の契り然らば解散

30年の6月3日開催の同期会を最終として解散した。

顧みれば昭和18年学帽の神中の微章に憧れ、県立小田原中学に入学したものの、既に学徒動員令下であった。戦火渦巻く中で軍需工場日新工業（久野、現日本たばこ跡地）に動員中終戦を迎え、中学3年生の夏、敗戦を知ったのである。

少年達は、それぞれの思いで八幡山の学舎に戻った。萌ゆる八幡山の若い力が脹ったのは、長興山にこだまするウサギ追いの雄叫びである。心の憂さを一度に吹き飛ばした。檜林に踊る白線帽は、六三三制の実施で新制高校3年に編入されたというと格好はいいが実は旧制高校等の入試失敗組で、いわば敗残兵である。指導する教師も戸惑い「すべてあなた様の指令を受けねばならなかった。」（譲原嘉一先生）

しかし、恩師は尊い。「後にも先にもこの時の君達程勉強した者は居ないと思う。言語に絶する苦難と屈辱に耐えた君達の力こそ今日の日本を築いたのである。」（成道寛先生）。さて、雲流るる果てに、卒業して今日までの思い出は限らないが、大切な仲間が順々に脱落する。最後の9名は、卒寿迄の願いも虚しく、中

止を決断せざるを得なかった。表題の「米寿の契り然らば解散」には上の句がある。「同期会雲流る果て道半ば」である。元号が終わるこの年わが同期会も焉哉乎也とする。有難う、有難う。（川口真勇記）

佐々木淳、高瀬孝夫、高橋佐年、葛田進一、長谷川恵三、廣井敏男、廣津璋一、渡辺栄一、川口真勇

中44・高2 八幡会 6年間の激動期の青春

私たちは、昭和19年4月、旧制の小田原中学に入学、勤労動員や工場動員、軍事教練やら箱根畑宿での報国寮、更には、艦載機による空襲、機銃掃射や爆撃にさらされ、中学1年から2年生へと八幡山を後にして、多感な青春時代が始まった。昭和6年、満州事変とともにこの世に生を受け、日中戦争、太平洋戦争と軍国主義教育、戦争で染めぬかれて成長してきた、それが昭和20年8月の終戦とともに平和国家として民主主義教育となり、運動会での平和門の入退場や仮装行列等、忘れられない楽しい民主主義教育をうけて小田原高校を卒業、69年たった今日、会員も57名となってしまった。

4月7日、25名で、お堀端の料亭「柏又」で、総会、懇親会と盛大に例年のように開催。その後、幹事の

古木弘久君の努力で「会員だより」が手づくりで完成、学友や遺族による物故者の追悼文も内容として配付でき、また会員の絆を強くする意味で写真にあるように出席者の写真もつけて、お互い元気を貰い励みになると思う。



料亭『柏又』にて (30年4月7日)

月一回の有志による定例会も催され、今後とも、幹事の村田道治、古木弘久、坂上功、奥津裕の4名でお世話をするつもりである。

また、戦時中や戦後の小田中、小田高生活の特集を会員だよりの中で載せられればとも考えている。

幹事長 奥津裕

「5回生の教室」つとも開設 「柶(やじ)」の祝いも

同窓会総会の日、母校の校舎1階の教室をかりて「5回生の教室」を開設しています。毎年設けているのですが、PR不足もあって、気づく

仲間が少ないのが実状です。昨年(30年)は6人がカオを出して、昼食後のフリートーキングを愉しみました。

東京・神田の古本屋街で古書あさりの面白さと目的の書籍を手にした時の喜び。財務省トップの取材記者へのセクハラでは、記者が所属するTV局の不可解な対応も狙上に上がりました。怖い猛毒ヒアリの日本上陸、米ジョージア大学のヒアリ研究の状況が紹介されました。

昨年は、同期のみなさんに呼びかけた創作「杉壽(さんじゅ)」83歳IIの祝いの会が流れてしまいました。が、長寿のみなさんはこんど84歳です。再び創作文字という提案が、この教室でありました。

早速、作ってみました。杉壽(さんじのいわい)は如何でしょうか。漢字の八十四歳をバラバラにする「木(八と十)」と「四」に。それを一文字にすると漢字の「柶(やじ)」になります。この文字は漢和辞典(小学館版)にもあって、スプーンの「匙(さじ)」と同音同義語です。パソコンでも出て来ます。

年齢をとって匙加減が上手になったと読むのか、あるいは堅いものが食べられない年齢になったと読むのか。解釈は自由です。では同窓会総会の日、5回生の教室で「柶壽」のみなさんとの再会を!

常任幹事

飯田和男
穴倉正弘
田嶋邦典

八榎会(高8)だより

その1 解散会

昨年12月14日「だるま料理店」で八榎会の解散会が57名の出席で行われました。八榎会は、平成4年ゴルフ親睦会として生まれ、14年65歳記念大会で昭和31年卒同期会を「八榎会」とすることに決定したものです。



小田高八榎会解散会 29年12月14日 於：だるま

25年の歴史の中で、ゴルフ・懇親会、講演会・忘年会、旅行会など多数の参加者が行事を盛り上げてくれましたが、寄る年波に勝てずに殆んどの方が満80歳になる12月に解散しました。解散会は、会長のあいさつ、経過報告のち懇親会に移り、校歌・応援歌で締めました。なお、歴史ある八榎会の名を残そ

うという声に、30年1月以降、有志が行う行事には、「Newer八樞会」として行うことにしました。

その2 百段坂を上るウォーク

昨年雨のため流れた「懐かしい百段坂を上り、お花見と史跡を辿るウォーク」を初めての「Newer八樞会ウォーク」として、好天に恵まれた4月3日実施しました。80歳超えの参加者24名全員が百段坂を上り切り、母校の同窓室（樞友会室）を見学し、同期の平野富雄君の案内で八幡山史跡を辿るウォークとお花見を楽しみました。

その3 ゴルフコンペ

「Newer八樞会ゴルフコンペ」が猛暑の続く7月19日足柄森林CCで12名が参加して行われました。当日は30℃を超える真夏日にもかかわらず、シニアテイからのスタートでしたが、1名を除き全員100を切り、無事にホールアウトしました。優勝尾上君、2位深谷君でした。これから年3回実施していくことを決めました。

池田勉

樞九会

今年、樞九会は傘寿記念となります。5月18日に高9回同期会・樞九会を開きました。夜来の雨もあがり、傘不要の天気。さすが樞九会のベテラン連中、集合写真の撮影5分前にソロソロ、きっちり集合、またたく間に撮影終了。乾杯後、直ちに歓談。

青春時代の思い出やこれからの人生を語り合った。

30分後に、傘寿記念の福引き。傘寿記念で傘3本。何と皮肉な事に、近隣在住者に当たらず、新潟、東京、横浜の在住者。「白波三人男」？稲手喝采！そしてスピーチコーナーでは、明大オチ研出身？の吉田昇司さんの漫談で抱腹絶倒。



傘寿記念の福引きで傘が当たり「白浪三人男」？を気取る当選者！ 撮影：福井三起

恒例の校歌・応援歌の斉唱後、肩を組み、円陣を作り、ヨロメキながらの「コチャエ節」。蛮声が会場に響き、お開きに！そして二次会へ。

(追伸) 昭和56(1981)年から始まった「樞九会」も、今年で31回開催。次回は2019年。新天皇即位記念。次々回の2020年は、東京オリンピック記念となし、年齢は82歳となります。足腰の弱ったご同輩も、参加が苦しくなり、この辺でお開きにしようと思えます。7期、

8期の同期会も解散しております。ご同輩！いかがでしょうか？

常任幹事 奥津和彦

高11だより

(1)

昨年2月2日に行った「知っていないで知らない小田高エリア巡りPart3」の寄地区探訪の際の昼食時に月村さん(6組)が「11期生全員が集まるのは喜寿の年の今年が最後になるかもしれないね」と言い出したのが事の発端になりました。そしてその場で、「そうだね、私たちは11期生だから11月11日にやろうか」で一同9名での「衆議」一決。そして迎えた「小田高11期生喜寿を祝う会」には喜寿の年そのものの77人の参加を得ることになりました。

77歳は11のラッキー7倍。まさに11月11日は、秋晴れの中、お堀端通りの「音羽」に元気な小田高11期同窓生が集いあうラッキーな一日となりました。

「知っていないで知らない同窓生」探しの前に「知っていないで知らない小田高」探りの一時。太田常任幹事が、小田高同窓会樞友会の資料委員会副委員長を長年にわたって務めてきている石井敬士さん(2組)から知られざる小田高について話を聴きただす小田高トーク「ああ、そうだったの！小田原高校」の時間からのスタートとなりました。

会場のあちこちで出来上がったクラス会での懇親にお互いに「喜寿パワー」を発揮している傍らで、今回初めて行った「個」展も結構な盛り上がりを示していました。芸術作品を並べた「個展」とせず「個」展としたのは、「知っていないで知っていない同窓生」の部分をお互いに紹介しあうためでした。



小田高11期生喜寿を祝う会

「個」展の極みは、佐倉久隆さん(1組)が近年地域交流活動をしなから習得したという民謡「黒田節」の舞踊。これには町田(田中)和代さんによる着付けという「個」展もしっかりついていました。右の写真に見える「小田高11期生喜寿を祝う会」の字幕も辻秀志さん(3組)の「個」展。日頃はシャイな田淵需延さん(3組)も、自著「夫婦で挑んだ日本百名山」を出展して熱弁を振るっておりまして。

なお、「小田高11期生」個展Part2は引き続き、望月郁文さん(3組)が当年建てられた宝安寺社会事業部「まある」にて行われた(11月15日、30日)。「まある」は社会福祉事業の上で壮挙を重ねてきた望月さんの大きな「個」展です。2018年以降も同時期(11月15日、30日)に、ここで「個」展を継続実施していく予定であります。「最後の試み」として行った「小田高11期生喜寿を祝う会」でしたが、11期生の心意気は「少なくとも、傘寿を祝う会」まで続けようよ」というところまで盛り上がりつつありました。

(2)

23年から継続実施している「樞友祭」(OHCD)での「11期生主催公開講演会」を開催し、江木紀彦さん(3組)が「情報化社会の光と影」と題する講演を行いました。



江木紀彦講師の講演

「情報通信技術(ICT)」と云えば、時代の寵児ともいえる言葉ですが、その実態はなかなか理解できず、大方の日本人にとって、知っていないで知らない言葉になりつつ

ているように思われます。

江木講師は、AIやらIoTやら、先端的な動向にばかり気をとられていると一層全体がとらえ難くなるという観点から、「第5社会（科学技術イノベーション）が先導する超スマート社会」を人類が迎えるに当たって、情報通信技術の進化の基本的な方向を見定めて、「我々の生活環境はどう変化するか」という論点から話を進めました。

このため「情報化の必要性は認識しているものの、専門用語も多く、なかなかついていけない。しかし、本日の講義により、理解が進み、面白く勉強できた。」といったアンケート回答が相次ぎました。

また、特に若年層が身近なところで「便利さ」（情報化社会の「光」）を享受しているながら私たちが世代には近くて遠い存在となっている「スマホ」についても江木講師は論及し「使わないと損ですよ」と軽く揶揄されました。スマホ習得に意気込んでいる受講者は「便利であると同時に裏腹におそろしくなってきましたね！」と答えていました。江木さんは「便利さ」の陰にある「危うさ」（情報化社会の「影」）についても述べられていたのですが、マイナス思考に流されがちな私たち世代は「影」の話の方にインパクトを感じやすいのかも知れません。「AIが進化していくと未恐ろしいことになりそうで、期待と不安が錯綜する。」というアンケート回答もありました。

私たち11期会は、「新・小田原高校の同窓会活動」の意識のもとに城内高校同期生の参加を呼びかけていますが、「母校をなくした私たちによりどころを与えてくださっているのは小田高11期だけです。」と感謝されており、今回は瀬戸（相田）松子さん（城内高校11期生）の参加を得ることができました。亡くなったご主人が瀬戸勇先輩（高9・山北中学卒）で、私たち11期会の輪に新たな彩が加わりました。

さて、講演会の後は「寿庵」での恒例の懇親会。「来年は小田高卒業60年。昭和が30年、平成が30年になる」という興味深い発言が出て、一気に「卒業60年記念行事挙行」の雰囲気盛り上がりつつありました。

★ 佐々木洋（高11）

井上久嘉氏を悼む
高校11期の前々常任幹事の井上久嘉さんが7月4日に亡くなられました。

私たち11期生は、学年合同パーティーや例年の樫友祭（ホームカミングデー）の際の公開講演会の開催の他に、ホームページ「小田原高等学校第11期」(http://odako11.com)の編集など学年全体としての活動を維持継続してきていますが、井上さんは「11期生の結束」のため尽力されておられました。その後、樫友会全体の活動の方に力点を移され、広報委員を務められ更に交流委員会委員長を務められ



在りし日の井上さん

ホームカミングデーの立ち上げに貢献されたことですので、多くの樫友会メンバー各位と直接・間接にお付き合いいただいていることになります。

また実業面で、慶応大学卒業後、老舗「寝具の店井上」の経営に携わる傍らでロータリークラブの活動にも従事されていまして、そちらの面で知己の樫友会メンバーも存外多いことと思います。

左記の在りし日の元気で明るい井上さんの写真をご覧になりながら、ともにご冥福をお祈りいただければ幸いです。

常任幹事 太田充・佐々木洋

高13回 喜寿同期会を開催します(予告)

31年は4月30日をもって終わり、5月からは新元号になります。その記念すべき年に13期生は喜寿を迎えます。前回の卒業55年の同期会から3年後ではありますが、皆で集まって喜寿を共に祝いたいと思ひ、幹事

会で次により喜寿同期会を開催することにしました。案内状は3月ごろ送りますので、大勢の参加をお待ちしています。
2019年5月27日(月) 正午開宴
湯本富士屋ホテル 会費 9千円
幹事長 星崎晃(5組)

高16回 同期会

10月28日に同期会を開催しました。今年3組が幹事となりましたが開催にあたっては毎年開催していることでもあり、新しい会になりました。ましようということになりました。まず、会場は初の報徳二宮神社報徳会館とし、集合写真なし、せわしないブツフェ形式にはしないけど安上がり、2次会は設営しない等々。



高16のゴージャス同期会

さて、安くともゴージャスな同期会を旨とした当日の参加者は72人で最高級の参加。門松武則君の司会により代表幹事の挨拶、牧野一仁君の

乾杯、会食へと進み、小田原のバンド「輪音」による昔懐かしい青春音楽の演奏と唱和、クラス毎の現況報告など楽しいひと時を過ごし、次期幹事となる4組の紹介などの後、応援歌は國分尚君のリードで、校歌は例によって門松松援団長の指揮の下意気軒高に歌いあげ、高校時代を懐かしみつつ健康のうちに次回の再会を約して石野郁也君のお礼と閉会の辞で盛会のうちに閉会となりました。もちろん元気な仲間は市内某所に再集合という例年とは少し変わった同期会になりました。中心となつて準備、運営にあたってくれた門松武則君と宝子山典宏君に感謝します。
代表幹事 内田俊正

高18回 古希同期会

18期生が古希を迎えた昨年11月18日(イイ18回)、湯本富士屋ホテルに119名が集まり、同期会を開催しました。

当日は恩師3名(石井先生、比企先生、高橋先生)にご出席を頂いたことに加え、所用で欠席された瀬戸仁先生からも同期への激励と思ひ出が綴られた手紙を頂きました。

卒業後、半世紀を過ぎたものの、一同に会すると即座に小田高時代にタイムスリップ、中でも高校時代の写真をスライドで紹介する。思い出の迷シーンが始まると会場が静まり返り、ウィットに富んだナレーション効果もあり、スクリーンに写る

懐かしい青春がよみがえりました。市内の女性コース・グループによるアトラクションでも、ゴスペルの力強い響きで会場の雰囲気が高まり、全員参加での合唱で会場に一体感が生まれました。

さらには、今回大好評だったのが、高校入学時（1年時）のクラス別懇談会。高校1年のクラス別写真や名簿を用意するなど準備に時間はかかったものの、すごく楽しい時間となりました。

最後は応援団長の飯田和君のリードで校歌を斉唱して2時間半に渡る一次会を終えました。



最高に盛り上がった「古希同期会」

多くの参加者から「良かったよ」との満足の言葉を受ける楽しい同期会が出来ました。

次回開催は、2020年4月18日（土：オリンピック直前）を予定し

ています。多くの仲間が元気で集まり、より一層楽しい同期会となるよう期待しています。

石島・大場

高21回 同期会

サッカーワールドカップ開催の年に開催されている同期会、第5回を10月6日に小田原コンベンションホールで開催しました。

当日は4名の恩師（安田先生、島津先生、長田先生、平井先生）初め同窓生合わせて90名の参加でした。

幹事長の挨拶に始まり、来年の樫友祭で講演をお願いしている茂登山君の他数名の同窓生によるスピーチが続きました。至る所で昔話や近況報告に花が咲き、あつという間の2時間半の楽しい時間でした。

次回は古希を迎える2年後に開催予定です。

幹事 小瀬純一



上庭の木造小屋

OB会の動き

サッカー部OB会の活動状況

サッカー部OB会は、会則（抜粋）「サッカー部に在籍した者、及びサッカー部に関係のあった者が会員となり、会員相互の親睦を図ると共に、心身の健康とサッカーの普及、発展を目的とする。」に従い活動しています。

30年4月時点の会員数は約880名で、会員からの会費及び寄付等を財源として主に次の活動を実施しています。

- ・現役の活動支援（ユニホームの寄贈、活動に必要な補助）
- ・蹴り初め会の実施（毎年元日に小田高グラウンドに於いて、現役とOBの交流戦など）
- ・ホームページの運用（29年に現役／OB相互の情報発信・交流を目的に開設）

「平成30年蹴り初め会」の掲載記事を紹介します。



小田原高校サッカー部OB会による「平成30年蹴り初め会」が、1月1日小田原高校グラウンドで開催され、現役、OB、小田原シーガルズメンバー、合わせて50名以上の参加をいただきました。あたたかな日差しと穏やかな天候に恵まれ、現役vs若手OB



小田原シーガルズ：40歳以上のOBを中心に結成されたチーム

戦、その後、あいさつ及び参加者自己紹介、OB紅白戦が行われました。現役、OB相互の交流が図られ、心地よい汗をかきながら、新しい年のスタートを切ることができました。

星野晃男（高24）

第10回樫泳泳会（水泳部OB会）総会開催

30年6月30日おだわら市民交流センターUMECOの会議室5において、6名の参加を得て懇親を深めました。

総会では、決算報告、予算計画、今後のOB会活性化策等について有意義な話し合いを行い、角田岳人会

長（高43）の挨拶をいただきました。前年度のマスターズ大会（競泳）参戦の報告があり、特に参加人数を増やす湘南マスターズ大会（平塚総合体育館温水プール・29年11月5日開催）に9名、日本マスターズ水泳短水路大会（熱海市・マリンスパあたま・30年5月25日〜27日開催）に8名の参加がありました。今年11月18日の湘南マスターズ大会と来年の熱海大会（5月開催）へ、できるだけ多くのOB・OGの参加に力を入れていく方針を引き続き確認しました。最後に、集合写真を撮りました。



無事に総会を終えました！

総会終了後の懇親会では、先輩方の近況や話題でもあるOB会の活性化等を話し、楽しく時間を過ごすことができました。

来年の総会もおだわら市民交流センターUMECOで開催する予定です。マスターズ大会へも随時参加します。マスターズ大会には登録も必要となりますので、不明点等はwebmaster@kenkai.org にお問い合わせください。なお、湘南マスターズ大会は登録不要です。ぜひ、先輩・同期・後輩を誘い合って参加

してください。極泳会ホームページ
[http://www.keneikai.org/]やフ
エイズブックに詳しい活動内容が
載っていますのでご覧ください。

会計 本多直司 (高48)

極泳会連絡先

メールアドレス

webmaster@keneikai.org

ホームページアドレス

http://www.keneikai.org/

ソフトテニス部OB会 活動報告

ソフトテニス部OB会では、8月5
日おだわら市民交流センターU M E
C Oにて、30年度の総会を開催しま
した。

総会では、事業報告・会計報告、
事業計画・予算案など恒例の議題が
審議・承認されたほか、役員改選が
行われ、遠藤郁夫会長(高13)に代
わり高校16期の小澤稔さんが新会長
に選出されました。総会後の懇親会
では、現役の活躍状況や支援活動が
話題となるなど、楽しいひと時を過
ごしました。また、OB会では今年度
も現役に練習用ボールを寄贈するな
ど、支援活動を行いました。

現役も期待に応え、29年度は女子
3ペアが関東大会に出場し、栗野・
山田ペアが第5位入賞、同ペアはイ
ンターハイ出場も果たしました。特
に国体の神奈川県代表に選出された
栗野選手は、シングルスで見事全勝
神奈川の第3位に大きく貢献しまし

た。今年度は残念ながら全国大会等
への出場は叶いませんでしたが、男
女とも個人・団体で県ベスト16に入
るなど、健闘しています。

OB会の目的は、現役の支援と会員
相互の親睦ですが、その活動は会員
の皆様の会費により運営されていま
す。今後もOB会の活動にご理解とご
協力をいただき、多くの会員の皆様
が様々な形でOB会の活動に関わっ
ていただくことを願っています。

幹事長 柴田正光 (高23)

運動部OB会連絡会

ソフトテニス部、野球部、陸上競
技部、サッカー部、剣道部、バレー
ボール部、バスケットボール部、卓
球部、バドミントン部、山岳部、弓
道部、水泳部のOB会12部が加盟し、
OB会相互の情報交換、在校部員への
後援や前年度優秀選手の顕彰などの
活動を行っています。7月1日に小
田原市民交流センターU M E C Oで、

反町聡之校長、津田同窓会長(高
20)らを来賓としてお招きし、「平
成30年度総会」を開催しました。



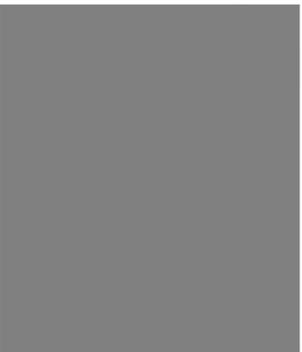
運動部OB会連絡会

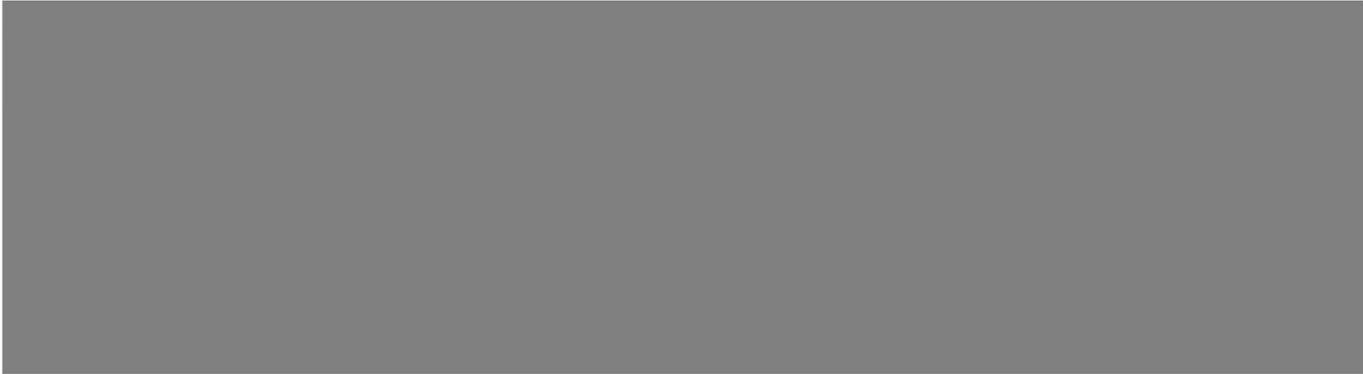
今年度は役員改選の年に当たり、
理事長が陸上部の瀬戸幾一(高7)
さんからサッカー部の小川恭二(高
15)さんに引き継がれました。瀬戸
さんは、4年間お疲れ様でした。総会
の後はH a R U N eおだわらの海鮮
横丁うおくに会場を移し懇親会。
各部顧問の先生が近況報告、決意表
明をされるなど、大いに盛り上がり
ました。

手塚満 (高39)

会員通信

30年度同窓会総会への返信等から(概要)





鎮遠の鐘 (※)



ご冥福をお祈りいたします

訃報



榿林 (※)



航空写真 (北東から撮影) (※)





**補助金をもらって
同期会を始めよう！**

同窓会が発展するためには、同期会の結束・活性化が不可欠です。そこで、同期会では、各卒業期が新たに同期会を結成する場合には、5万円を限度として、補助金を交付しています。ぜひ、ご利用ください。補助金の交付を希望される場合は、同窓会ホームページの同期会結成補助金交付要領にしたがって、申請書をダウンロードしてお使いください。申込書および必要書類を添付してP36同窓会連絡先宛てに郵送してください。

また、各同期会において、同期の住所録一覧(Excelファイル等)が必要な場合には、申請書に希望内容と連絡先PCメールアドレスを追記いただくか、または、榎友会(kenyukai@odako.org)宛てにメール連絡いただければ、対応いたします。☆なお、同期会開催後は、報告書を提出するか、会報「八幡山」に投稿をお願いします。

同期会結成補助金交付一覧

2018年10月末現在

No	卒回	申請者	申請日	交付日	開催日・会場・人数等	報告書	八幡山
1	高52回		2005/2/14	2005/2/15	2005/1/2 味澤 107人	2005/2/14	第16号 (2005/4/10)
2	高20回		2005/9/20	2005/9/20	2004/11/13 小田原市民会館 80人	2005/9/20	第17号 (2006/4/10)
3	高53回		2006/3/31	2006/3/31	2006/1/2 味澤 172人	2006/3/31	第17号 (2006/4/10)
4	高11回		2006	2006	2006/5/28 湯本富士屋ホテル 87人 来賓3人	八幡山で代替	第18号 (2007/4/10)
5	高21回		2006	2006	2006/秋 報徳会館 123人 来賓8人	八幡山で代替	第18号 (2007/4/10)
6	高41回		2008/8/25	2008/8/25	2008/8/30 湯本富士屋ホテル 110人	八幡山で代替	第21号 (2009/12/10)
7	高19回		2009/5/1	2009/5/11	2009/5/17 鈴広 130人	八幡山で代替	第21号 (2009/12/10)
8	高17回		2009/5/1	2009/5/11	2009/10/3 京王プラザホテル 100人	八幡山で代替	第21号 (2009/12/10)
9	高32回		2011/4/25	2011/5/9	2011/5/15 報徳会館 114人 来賓4人	2011/5/28	第23号 (2011/12/10)
10	高34回		2011/5/20	2011/5/20	2011/7/31 湯本富士屋ホテル 186人 来賓4人	2011/8/31	第23号 (2011/12/10)
11	高46回		2011/6/10	2011/6/17	2011/7/17 報徳会館 120人 来賓7人	2011/9/5	第23号 (2011/12/10)
12	高18回		2012/10/31	2012/11/17	2012/11/10 小田原万葉の湯 107人 来賓3人	2013/2/25	第23号 (2011/12/10)
13	高26回		2013/2/20	2013/2/27	2013/3/2 小田原市民会館 90人	2013/3/12	第23号 (2011/12/10)
14	高56回		2013/5/4	2013/5/19	2013/5/4 報徳会館 190人	2013/8/19	第25号 (2013/12/10)
15	高24回		2013/7/9	2013/7/20	2013/10/26 湯本富士屋ホテル 79人 来賓1人	2013/11/19	第25号 (2013/12/10)
16	高39回		2013/10/11	2013/11/5	2013/10/12 報徳会館150人 来賓9人	2013/12/10	第26号 (2014/12/10)
17	高64回		2014/2/22	2014/3/15	2014/2/23 Royal Manner Fort BelleJour 189人	2014/3/15	
18	高22回		2014/4/5	2014/4/19	2014/5/18 鈴廣「鈴の音ホール」 96人	2014/6/5	第26号 (2014/12/10)
19	高48回		2015/7/14	2015/9/12	2015/8/15 小田原万葉の湯 125人	八幡山で代替	第27号 (2015/12/10)
20	高36回		2015/8/17	2015/9/12	2015/11/1 湯本富士屋ホテル 120人	八幡山で代替	第27号 (2015/12/10)
21	高57回		2016/10/26	2017/2/4	2017/2/12 報徳会館	八幡山で代替	第29号 (2017/12/10)
22	高40回		2017/8/10	2017/9/9	2017/9/2 小田原万葉の湯	八幡山で代替	第31号掲載予定
23	高68回		2018/2/6	2018/3/27	2018/3/17 報徳会館 200人	八幡山で代替	第31号掲載予定
24	高28回		2018/9/16	2018/10/6	2018/12/2 報徳会館 100人	八幡山で代替	第31号掲載予定

**名義後援の
制度があります！**

同窓会では、名義後援の承認手続きに関する要綱を制定し、名義後援の制度があります。名義後援とは、会員である個人又は各種団体等が実施する事業等に対して、同窓会が経費等の負担をせず、単に後援の名義を使用させることをいいます。名義後援を希望される場合には、P36同窓会連絡先宛てにお問合せください。

購入のお誘い

- ・創立百周年記念史
- ・小田高絵葉書

創立百周年記念史のご案内

母校は平成22(2010)年に創立百周年を迎えました。創立百周年記念事業の一環として、24年3月に創立百周年記念史『小田原高校百周年から十年の歩み』を発売しました。B5判、縦書、二段組、316ページです。実費1,000円(送料別)にて販売しておりますので、私書箱宛、または同窓会ホームページからご注文ください。お支払い方法



は書籍に同封してお送りいたします。

内容

- 絵(カラー9ページ)
- 序章 豊かな実りを求めて
- 第一章 再編統合と単位制への移行
- 第二章 学力向上進学重点校と教育制度の変革
- 第三章 新校舎落成と新グラウンド完成
- 第四章 創立百周年記念事業
- 第五章 生徒会
- 第六章 PTA
- 第七章 同窓会
- 資料集
- 年表

小田高絵葉書

母校の絵葉書を作りました。校訓扁額、榎林(セピア)、鎮遠の鐘、創立五十周年記念図書館、旧体育館、初代榎葉館、上庭の木造小屋(セピア)、第四代校舎、航空写真(西から撮影)、航空写真(南東から撮影)、航空写真(北東から撮影)があり、本号の各所に掲載しています。1枚100円(送料別)。ご購入はP36同窓会連絡先宛てにご連絡ください。本号の各所に掲載しています。キャプションに※が付いています。

**全国レベルで活躍する
卒業生をお知らせください！**

資料委員会では数年来、全国レベルで活躍する卒業生を集めた「卒業生の活躍」というリストを作り、情報をいただきますと運営委員会で承

認を得て、リストを常時更新しております。

「卒業生の活躍」は、毎年3月に新入会員(3年生)へ配付する小冊子『樞友会』に掲載したり、小田高祭で同窓会企画として展示したりして、多数の生徒、保護者、卒業生から高い関心をいただいています。

そこで「卒業生の活躍」をより充実させるため、それぞれの同期会、地域・職域等同窓会、部OB会、そして個人のみなさまから、広く情報をご提供いただきたく存じます。ぜひ同窓会事務局(P36同窓会連絡先)まで、お知らせくださいますようお願い申し上げます。

第31号「八幡山」の原稿募集と投稿先のお知らせ

同期会、地域同窓会、職域同窓会、運動部や文化部などのOB会など、また、同窓生による事業や行事の開催の様子や開催予定の告知など同窓生の仲間にお知らせしたい記事の投稿をお待ちしています。

◆投稿先

メールの場合は、kaiho@odako.org宛てにお送りください。

FAX、郵送(私書箱)による場合は、P36同窓会連絡先宛て投稿をお願いします。

◆提出期限

2019年9月1日

原稿が遅くなる場合は一報ください、予め余白を用意いたします

ので掲載は可能です。

◆「八幡山」をホームページで見ることが出来ます。

25号から会員通信、訃報、会費・寄付金納入者リストを除き、掲載された内容を小田高同窓会ホームページから閲覧できます。

◆個人情報にご注意ください

会報や同窓会ホームページに原稿を掲載する際、個人が特定できる氏名や写真等が含まれる原稿をご投稿いただく際は、必ずご本人の事前の承認を受けていただきますようお願いいたします。

第31号「八幡山」に掲載する広告を募集します!!

同窓会では同窓会事業の財源を確保するため、会報に広告を掲載しています。当会報は、学区内に限らず、全国の同窓会会員に配付しており、小田原高校卒業生はもとよりご家族の方にもお読みいただいています。広告の掲載を希望される方は、P36同窓会連絡先までお申出ください。

◆発行時期

2019年12月中旬(予定)

◆発行部数

約23,500部(予定)

◆配付先

同窓会会員 約22,000部
在校生及び新入生約1,000部
教員・他校同窓会等 約500部

◆広告料(寸法はおおよそです。)

①横8.8cm×縦4.5cm

15,000円

① 1頁5段のうちの最下段の半分)
② 横17.8cm×縦4.5cm 30,000円

(1頁5段のうちの最下段)
③ 横17.8cm×縦9.6cm 60,000円

(1頁5段のうちの最下段)

広告料のお支払いは、お申込をいただいた後、同窓会から振込口座をご連絡しますので、それによりお振込みください。なお、その際の振込手数料は、広告主様でご負担いただきますようお願いいたします。

◆広告原稿

広告の原稿(デザインを含む)は、申込の際、広告主様ご自身でご用意ください。掲載時は白黒(グレイ可)となります。

◆募集の締切り

締切りは2019年7月31日とさせていただきます。



至誠無息

広告原稿の作成が間に合わない場合は、遅くとも9月末までにお送りください。申込方法は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、会報の趣旨や体裁からお申込数が多数となる場合はお断りすることもありますので、ご承知おきください。

会費は同窓会活動の源泉です!

同窓会は会費で運営されています。この会報「八幡山」は、会員全員に送られています。発送部数は、約2万2千部になります。

また、会費は、ホームカミングデー、校歌祭、校史展示室の運営、運動部等生徒の激励、新入会員記念品の贈呈など、さまざまな会の運営の源泉になっています。

◆納入はコンビニ・郵便局などで

年会費 3千円。ただし、卒業後1年目(19歳)は納入を免除し、卒業後2年目(20歳)から6年目(24歳)までは、千円です。

年会費は、この会報に同封されている払込取扱票をもってコンビニまたは郵便局で納入いただくか、次の要領によりお振込みください。

★ゆうちょ銀行を利用

- ・口座番号0024014163525
- ・口座名 神奈川県立小田原高等学校同窓会

★銀行・信金から振込

- ・銀行名 ゆうちょ銀行(9900)
- ・支店 029(ゼロニキユウ)
- ・口座番号 当座 0063525

・加入者名(カナ) カナガワケンリツオダワラコウトウガッコウドウノウカイ
★ダイレクトバンキングを利用
パソコンや携帯電話などを操作して振込む方法もあります。

この方法は銀行などの支店に行かなくてもよく、いつでも利用でき、手数料が支店利用時よりも安くなるなどのメリットがあります。

◆なお、ご依頼人・通信欄において、次の例の通り、ご氏名のあとに卒業回数を必ず記入願います。
・払込用紙の場合
小田高 太郎 高45

・ATMダイレクトバンキングの場合
オダコウ タロウ コウ45
但し、ゆうちょダイレクトの場合、ご依頼人番号に卒業回数を記入願います(中学卒業生の場合は先頭に0(ゼロ)をつけてください)

◆終身会費が人気です
60歳以上の方は、年齢に応じた金額(60歳は5万円、70歳以上は1万円)を納入することができます。

ご利用には「郵便局の払込取扱票」が必要です。詳しくは同封の「終身会費制度のご案内」をご覧ください。

小田高応援基金からの報告

「がんばれ!小田高」応援基金は本年度で11年目となります。昨年度までにご寄付いただいた方はのべ千二百人・34団体に及びます。

毎年ご寄付くださる方や、同期会からのご寄付をいただくこともあり、同窓生の皆様のご芳志に運営委員会一同心より御礼申し上げます。

最近の支援の内容は、学校説明会用プロジェクト等の購入、南館前時計修理、進路学習会にかかる卒業生講師交通費および学校説明会用クリアファイルの作成等です。

◆**基金への寄付**は、同窓生、PTA会員、趣旨に賛同される一般の方を対象に受付けています。

◆**寄付金の額は**、一口千円で何口でも結構です。

◆**寄付のお申し込み方法は**、同封の郵便払込取扱票（払込手数料は基金負担）でお願いします。また次の口座への振込みも可能です。その際の振込手数料は、恐れ入りますが皆様にご負担をお願いします。

【ゆうちょ銀行（口座番号）】

小田原支店（029）預金種目 当座
口座名「がんばれ！小田高」応援基金
口座番号 0025018181599

【他行から振込む場合】

ゆうちょ銀行 029（ゼロニキュウ）支店 当座預金

口座番号 0081599

口座名「ガンバレオダコウオウエンキケン」

学習や部活に全力で取り組んでいる小田高生を支援するため、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



第三代校舎（※）

29年度 応援基金会計報告

(単位：円)

収入の部		支出の部	
繰越金	3,156,932	進路指導・進学研究	2件 61,000
寄付(99名)	631,000	理科教育	1件 86,292
寄付(2団体)	152,737	学校説明会	1件 99,812
銀行預金利子	23	部活動支援	1件 63,072
		運営費(郵便振替経費ほか)	48件 39,546
計	3,940,692	計	349,722

差引の部(円)	3,940,692 - 349,722 = 3,590,970
---------	---------------------------------

櫛の葉文庫

創設三十周年

「櫛の葉文庫」は卒業生、在校生、旧職員、現職員、その家族の著書を集めたものです。平成元(1989)年3月、小田高が県下で初めて開設しました。今年三十周年になります。小説、雑誌、画集、教科書など多岐にわたる、生徒は先輩の活躍を知ることが出来ます。当時、図書部主任だった生物の原田都生先生(昭和34年〜平成6年在職)が発案されました。原田先生は25年、放送部の取材に次のように語られています。



取材に応じる原田先生

「図書部に入りましたが、学校司書の大場和子先生(昭和35年〜平成8年在職)が仕事を全部してくれるので、やることはありませんでした。私は図書を選定などできない。優秀な卒業生が大勢いるから、その人たちは本や論文を出しているにちがいない。それを図書館に集めることくらいなら、私にもできるのではないかと思いつきました。」

図書部の先生方の快諾を得て、平成元年3月までの1年間にPTAや同窓会に、小田高の生徒、卒業生、先生、その家族の本をいただきたいと呼びかけました。

伊勢治書店、平井書店、八小堂書店には卒業生の本を探してくれるように頼みました。

山田太一(高5)さんの本が多いと思います。250冊が集まりました。

名称は大場先生に聞きましたら、「櫛の葉に決まっていますよ!」と即答されました。

今は1300冊も集まり、高校でこれほど集まっているのは日本でも世界でもまずないでしょう。」

本年8月末現在、所蔵数は1696冊に上ります。

小田高図書館に常設され、開架式で在校生が自由に利用できます。

著書をお持ちでしたら、ぜひ小田高図書館へご寄贈ください。



創立50周年記念図書館（※）

卒回	著者	書名
中39	小玉 利助	縦横自由律句集 第十二詩集(二)、湘南清風詩集 第十四集、長江はるかなり 第十三集
高11	石井 敬士	小田原史談 第251号・第252号・第253号・第254号
高34	前田 英彦	曲集 苜蓿
高14	村上 龍太郎	自伝小説 あるブンヤ伝(下)
高8	杉山 博久	魔道に魅入れられた男たち
高19	井出 光	<不思議>に満ちたことばの世界
中44	八幡会	八幡会会員だより 第15号
高9	秋山 三郎	エッセンシャルポリマーアロイ
高58	小山田 圭佑	不動産鑑定士の仕事図鑑
高35	真船 一雄	K2 30、ウルトラマンstory 04
高26	井上 弘	戦争と民衆 第81号、未来へつなぐ小田原の戦争体験
中41	播磨 晃一	こゆるぎ座四十年 1946~1985
中43	二見 修次	かながわ学びの軌跡 戦後教育50年史
高7	川野 武男	七期生の24000日

※29年9月~30年8月寄贈分

寄付金・会費納入状況 (29年10月から30年9月まで)

卒年	会員数	亡	不明者	有効会員数	入金人数	入金額	入金率	卒年	会員数	亡	不明者	有効会員数	入金人数	入金額	入金率
旧教職員	896	237	228	431	3	16,000	0.70%	高11回(昭和31年～34年)	389	96	21	272	44	132,000	16.18%
小計	896	237	228	431	3	16,000	0.70%	高12回(昭和32年～35年)	395	63	39	293	42	126,000	14.33%
中学校								高13回(昭和33年～36年)	390	55	29	306	44	135,000	14.38%
中1回(明治34年～39年)	42	40	2	0	0	0	0.00%	高14回(昭和34年～37年)	407	61	52	294	36	108,000	12.24%
中2回(明治35年～40年)	41	37	4	0	0	0	0.00%	高15回(昭和35年～38年)	379	53	48	278	30	90,000	10.79%
中3回(明治36年～41年)	41	38	3	0	0	0	0.00%	高16回(昭和36年～39年)	386	58	24	304	24	72,000	7.89%
中4回(明治37年～42年)	41	38	3	0	0	0	0.00%	高17回(昭和37年～40年)	405	49	51	305	28	84,000	9.18%
中5回(明治38年～43年)	36	30	6	0	0	0	0.00%	高18回(昭和38年～41年)	528	60	66	402	38	114,000	9.45%
中6回(明治39年～44年)	52	39	13	0	0	0	0.00%	高19回(昭和39年～42年)	472	38	54	380	36	108,000	9.47%
中7回(明治40年～45年)	25	25	0	0	0	0	0.00%	高20回(昭和40年～43年)	485	29	82	374	46	141,000	12.30%
中8回(明治41年～大正2年)	56	44	12	0	0	0	0.00%	高21回(昭和41年～44年)	455	41	51	363	28	84,000	7.71%
中9回(明治42年～大正3年)	71	66	5	0	0	0	0.00%	高22回(昭和42年～45年)	435	41	66	328	33	99,000	10.06%
中10回(明治43年～大正4年)	57	52	5	0	0	0	0.00%	高23回(昭和43年～46年)	439	25	59	355	21	63,000	5.92%
中11回(明治44年～大正5年)	59	47	12	0	0	0	0.00%	高24回(昭和44年～47年)	429	13	98	318	25	75,000	7.86%
中12回(明治45年～大正6年)	63	54	9	0	0	0	0.00%	高25回(昭和45年～48年)	414	12	87	315	26	78,000	8.25%
中13回(大正2年～7年)	59	55	4	0	0	0	0.00%	高26回(昭和46年～49年)	411	15	110	286	30	90,000	10.49%
中14回(大正3年～8年)	84	75	9	0	0	0	0.00%	高27回(昭和47年～50年)	407	23	60	324	34	102,000	10.49%
中15回(大正4年～9年)	75	58	16	1	0	0	0.00%	高28回(昭和48年～51年)	405	13	79	313	23	72,000	7.35%
中16回(大正5年～10年)	95	89	6	0	0	0	0.00%	高29回(昭和49年～52年)	452	18	89	345	34	102,000	9.86%
中17回(大正6年～11年)	80	73	7	0	0	0	0.00%	高30回(昭和50年～53年)	445	10	136	299	27	81,000	9.03%
中18回(大正7年～12年)	94	77	16	1	0	0	0.00%	高31回(昭和51年～54年)	445	5	122	318	43	129,000	13.52%
中19回(大正8年～13年)	103	92	11	0	0	0	0.00%	高32回(昭和52年～55年)	452	12	66	374	63	189,000	16.84%
中20回(大正9年～14年)	113	99	14	0	0	0	0.00%	高33回(昭和53年～56年)	445	11	76	358	27	81,000	7.54%
中21回(大正10年～15年)	108	96	11	1	0	0	0.00%	高34回(昭和54年～57年)	451	7	51	393	26	78,000	6.62%
中22回(大正11年～昭和2年)	114	107	6	1	0	0	0.00%	高35回(昭和55年～58年)	455	5	111	339	25	75,000	7.37%
中23回(大正12年～昭和3年)	117	102	15	0	0	0	0.00%	高36回(昭和56年～59年)	445	10	89	346	12	36,000	3.47%
中24回(大正13年～昭和4年)	110	97	11	2	0	0	0.00%	高37回(昭和57年～60年)	403	7	115	281	17	51,000	6.05%
中25回(大正14年～昭和5年)	125	108	14	3	0	0	0.00%	高38回(昭和58年～61年)	454	9	122	323	7	24,000	2.17%
中26回(大正15年～昭和6年)	109	105	4	0	0	0	0.00%	高39回(昭和59年～62年)	465	6	145	314	19	57,000	6.05%
中27回(昭和2年～7年)	152	146	5	1	0	0	0.00%	高40回(昭和60年～63年)	456	2	155	299	23	69,000	7.69%
中28回(昭和3年～8年)	153	140	8	5	0	0	0.00%	高41回(昭和61年～平成元年)	469	8	99	362	14	42,000	3.87%
中29回(昭和4年～9年)	143	125	12	6	0	0	0.00%	高42回(昭和62年～平成2年)	513	3	112	398	12	36,000	3.02%
中30回(昭和5年～10年)	155	132	18	5	0	0	0.00%	高43回(昭和63年～平成3年)	477	2	108	367	13	39,000	3.54%
中31回(昭和6年～11年)	164	143	13	8	0	0	0.00%	高44回(平成元年～4年)	514	3	119	392	11	33,000	2.81%
中32回(昭和7年～12年)	150	131	13	6	0	0	0.00%	高45回(平成2年～5年)	456	4	120	332	12	36,000	3.61%
中33回(昭和8年～13年)	173	152	10	11	0	0	0.00%	高46回(平成3年～6年)	442	4	108	330	6	18,000	1.82%
中34回(昭和9年～14年)	168	144	7	17	1	3,000	5.88%	高47回(平成4年～7年)	439	2	98	339	4	12,000	1.18%
中35回(昭和10年～15年)	162	131	16	15	0	0	0.00%	高48回(平成5年～8年)	427	2	116	309	9	27,000	2.91%
中36回(昭和11年～16年)	175	146	10	19	0	0	0.00%	高49回(平成6年～9年)	414	1	106	307	11	33,000	3.58%
中37回(昭和12年～17年)	177	140	14	23	0	0	0.00%	高50回(平成7年～10年)	398	3	104	291	4	12,000	1.37%
中38回(昭和13年～18年)	184	123	13	48	5	15,000	10.42%	高51回(平成8年～11年)	391	1	103	287	5	15,000	1.74%
中39回(昭和14年～19年)	188	124	18	46	4	12,000	8.70%	高52回(平成9年～12年)	395	1	88	306	4	12,000	1.31%
中40回(昭和15年～20年)5年制	197	131	13	53	5	15,000	9.43%	高53回(平成10年～13年)	356	0	82	274	8	24,000	2.92%
中40回(昭和16年～20年)4年制	207	133	11	63	5	112,000	7.94%	高54回(平成11年～14年)	357	2	84	271	3	9,000	1.11%
中41回(昭和17年～21年)中42回	97	60	15	22	1	3,000	4.55%	高55回(平成12年～15年)	358	0	73	285	5	15,000	1.75%
中42回(昭和17年～22年)	141	84	17	40	2	6,000	5.00%	高56回(平成13年～16年)	317	0	60	257	2	6,000	0.78%
中43回(昭和18年～23年)高1回	176	86	31	59	6	18,000	10.17%	高57回(平成14年～17年)	395	3	74	318	2	6,000	0.63%
中44回(昭和19年～23年)高2回	63	28	16	19	2	6,000	10.53%	高58回(平成15年～18年)	388	1	76	311	3	12,000	0.96%
併中1回(昭和20年～23年)高3回	26	0	0	26	0	0	0.00%	高59回(平成16年～19年)	318	0	46	272	3	9,000	1.10%
併中2回(昭和21年～24年)高4回	40	0	0	40	0	0	0.00%	高60回(平成17年～20年)	320	0	45	275	4	12,000	1.45%
小計	5,061	4,042	478	541	31	190,000	5.73%	高61回(平成18年～21年)	318	0	38	280	3	9,000	1.07%
高等学校								高62回(平成19年～22年)	322	0	28	294	4	12,000	1.36%
高1回(昭和23年～24年)	112	61	2	49	2	6,000	4.08%	高63回(平成20年～23年)	315	1	26	288	10	30,000	3.47%
高2回(昭和23年～25年)	194	93	22	79	17	51,000	21.52%	高64回(平成21年～24年)	322	0	18	304	11	11,000	3.62%
高3回(昭和23年～26年)	320	147	39	134	13	39,000	9.70%	高65回(平成22年～25年)	321	0	19	302	11	11,000	3.64%
高4回(昭和24年～27年)	347	139	36	172	21	63,000	12.21%	高66回(平成23年～26年)	318	0	3	315	14	14,000	4.44%
高5回(昭和25年～28年)	377	144	32	201	29	87,000	14.43%	高67回(平成24年～27年)	320	0	5	315	12	12,000	3.81%
高6回(昭和26年～29年)	381	118	49	214	34	102,000	15.89%	高68回(平成25年～28年)	318	0	1	317	26	26,000	8.20%
高7回(昭和27年～30年)	412	132	29	251	30	93,000	11.95%	高69回(平成26年～29年)	320	0	0	320	14	14,000	4.38%
高8回(昭和28年～31年)	387	114	44	229	40	120,000	17.47%	高70回(平成27年～30年)	311	0	0	311	0	0	0.00%
高9回(昭和29年～32年)	401	109	39	253	50	150,000	19.76%	小計	27,667	2,050	4,638	20,979	1,435	4,149,000	6.84%
高10回(昭和30年～33年)	408	105	34	269	48	146,000	17.84%	合計	33,624	6,329	5,344	21,951	1,469	4,355,000	6.69%

※中1回から高69回までは会費の納入をお願いしている卒業回数です。高70回の方々には、ご寄付という形で納入頂いています。

終身会費納入者

同窓会活動は同窓生の会費で運営されています

平成29年10月から平成30年9月までの会費納入者と寄付者のみならず（敬称略）

年会費・寄付金納入者

--	--

--	--

--	--

--	--

--	--

小田高祭! 最高! 小田高! Let's GO!

6月2日、3日の2日間、小田高生にとって初夏の風物詩である小田高祭が行われました。テーマは『最高! 小田高! Let's GO!』です。

1年次は本年も折り鶴壁画を制作しました。テーマは『わ』。この一

字をどう解釈し、昇華させるのか。「輪」、「和」、「羽」など学級ごとに創意工夫を凝らした作品をみることでできました。1位に選ばれたのは1年9組の作品でした。

2年次・3年次は、本年も各学級で演劇発表を行いました。2年次は

喜劇を、3年次は映画・テレビドラマなどを基にした演劇を発表しました。2年4組の『千と千尋の神隠し』、

3年1組の『オリエント急行殺人事件』がそれぞれ1位になりました。

また、装飾・道具部門は3年9組の『私の頭の中の消しゴム』、看板・



垂れ幕部門では3年6組の『オリエント急行殺人事件』、Tシャツ・PV・部活部門ではダンス部がそれぞれ1位になりました。

そして小田高祭最高の賞である、小田高祭大賞はダンス部が受賞しました。

部活動、委員会、各学級、それぞれの思いを込めてつくりあげた小田高祭は今年も盛況のうちに幕を閉じました。



**同窓会へご寄付を
いただきました**

次の皆様からご寄付をいただきました。
ありがとうございました。
(敬称略・寄付年月日順)



中学からの進学状況

(平成30年5月1日現在)

(1) 出身中学校別生徒数

出身中学		学 年			
		1年	2年	3年	合計
小田原市	鴨宮	9	11	16	36
	橋	1	3	4	8
	国府津	4	6	7	17
	酒匂	7	14	8	29
	城山	11	11	12	34
	城南	2	8	4	14
	城北	6	8	4	18
	千代	10	11	8	29
	泉	6	11	10	27
	白鷗	3	2	10	15
南足柄市	白山	23	16	7	46
	岡本	7	5	5	17
	足柄台	9	10	8	27
足柄上郡	大井町	9	9	7	25
	松田町	4	4	4	12
	開成町	11	9	8	28
	山北町	2	4	3	9
足柄下郡	中井町	1	5	0	6
	箱根町	1	2	1	4
	湯河原町	9	8	3	20
秦野市	真鶴町	4	3	5	12
	本町	8	7	6	21
	西沢	3	6	6	15
	大根	10	5	10	25
	鶴巻	3	0	3	6
	東	8	6	7	21
	南	3	4	6	13
	南が丘	3	4	9	16
	北	8	12	5	25
	伊勢原市	0	5	4	9
伊勢原市	伊勢原	6	4	6	16
	山王	3	3	1	7
	成瀬	8	2	5	15
	中沢	1	4	3	8
平塚市	浜岳	3	13	3	19
	大住	4	0	0	4
	旭陵	2	0	2	4
	金旭	2	1	0	3
	金目	1	1	1	3
	江陽	1	1	2	4
	山城	0	0	1	1
	春日野	0	0	1	1
	神明	1	0	0	1
	太洋	2	0	2	4
大野	1	1	0	2	

出身中学		学 年			
		1年	2年	3年	合計
中 郡	平塚市	1	1	1	3
	大磯町	3	5	3	11
	二宮町	9	8	6	23
	二宮西	2	3	6	11
	浜須賀	4	1	4	9
	円蔵	1	0	0	1
	北陽	0	0	1	1
	松林	0	3	3	6
	松林	1	1	1	3
	西浜	1	1	2	4
茅ヶ崎市	赤羽根	3	1	0	4
	第一	4	2	0	6
	中島	1	1	3	5
	鶴が台	0	0	1	1
	鶴嶺	2	1	1	4
	梅田	7	1	4	12
	萩園	2	1	0	3
	寒川	1	0	0	1
	寒川	3	0	0	3
	旭丘	2	0	0	2
鎌倉市	大船	1	0	0	1
	深沢	2	0	0	2
	手広	1	1	0	2
	横浜国大附属鎌倉	0	0	1	1
	片瀬	1	0	0	1
	秋葉台	0	0	1	1
	大清水	1	0	0	1
	大庭	0	1	1	2
	善行	1	0	0	1
	第高倉	0	1	1	2
藤沢市	高滝	1	0	0	1
	滝の沢	0	1	0	1
	羽鳥	2	0	0	2
	藤ヶ岡	1	0	1	2
	高浜	2	2	1	5
	高浜	1	2	2	5
	湘洋	0	2	1	3
	村岡	0	2	4	6
	明治	0	1	0	1
	睦合東	1	0	0	1
厚木市	相川	3	0	1	4
	林	0	1	0	1
	玉川	2	4	1	7
	厚木	2	5	2	9
	小鮎	1	1	1	3
	森の里	1	2	6	9

出身中学		学 年			
		1年	2年	3年	合計
厚木市	東名	2	2	3	7
	南毛利	3	4	6	13
海老名市	海老名	0	1	0	1
	西	1	0	0	1
座間市	栗原	4	0	0	4
	座間	0	1	0	1
綾瀬市	城山	0	0	1	1
	相模原	1	0	0	1
相模原市	相原	1	0	0	1
	相原	0	0	1	1
横浜市	戸塚	0	0	1	1
	西本郷	0	0	1	1
その他	領家	1	0	0	1
	合計	3	3	1	7
合 計		320	322	317	959

(2) 居住地別人数

居住地		学 年			
		1年	2年	3年	合計
小田原市		84	102	91	277
南足柄市		26	25	30	81
足柄上郡	大井町	9	9	7	25
	山北町	2	4	3	9
	開成町	12	9	8	29
	松田町	5	4	4	13
足柄下郡	中井町	1	5	0	6
	湯河原町	12	9	2	23
	箱根町	1	3	1	5
	真鶴町	2	2	5	9
秦野市		46	49	56	151
伊勢原市		18	13	15	46
中 郡	二宮町	11	13	12	36
	大磯町	7	10	12	29
平塚市		18	18	13	49
茅ヶ崎市		25	13	20	58
高座郡	寒川町	6	3	0	9
	藤沢市	11	9	12	32
海老名市		0	1	0	1
綾瀬市		0	0	1	1
厚木市		14	18	20	52
座間市		5	1	0	6
相模原市		0	1	0	1
熱海市		0	0	1	1
鎌倉市		4	1	1	6
横浜市		1	0	3	4
合 計		320	322	317	959

掲載広告索引 (五十音順)



ご協力いただき、
誠にありがとうございました。



津田会長の挨拶

今年も新たに311人の会員を同窓会に迎えました。思い出の詰まった母校からの卒業式を翌日に控えた3月9日、母校体育館で第70回卒業生の榎友会(同窓会)入会式が行われました。

校内幹事長の津田富士夫先生(高30)の司会で、まず、津田憲一郎会長(高20)が新入会員に対して、同

新会員を迎えて
榎友会入会式

窓会の活動内容、2万人を超える卒業生が社会の各分野で活躍していることなどを紹介し、入会への歓迎とこれからの活躍を期待する激励の言葉を贈りました。引き続き、各クラスから選出された2人ずつの幹事の紹介があり、高70の常任幹事となった小澤柚里さん、三宅諒祐さんに、会長から常任幹事の委嘱状が手渡されました。2人の常任幹事からは、常任幹事の決意が表明されました。また、新入会員には、入会記念品としてボールペンと印鑑がセットになったネームペンが贈られました。最後に、司会の津田先生から、同窓会組織の概要や各委員会の活動内容、榎友祭(ホームカミングデー)などの紹介があり、入会式を無事に終えることができました。

今年も校内幹事の先生をはじめとして、学校のご理解とご協力により、卒業生全員が同窓会の会員となりました。

平成29年度 入試結果と進路状況

(平成30年4月2日現在)

大学別合格者数

【国立大学】

合格者合計71名
(現役生53名、既卒生18名)

大学名	合計	内現役
北海道	7	4
東北	1	1
秋田	1	1
筑波	2	1
千葉	6	4
お茶の水女子	1	1
電気通信	1	1
東京	1	0
東京海洋	4	4
東京外国語	2	2
東京学芸	2	2
東京工業	3	1
東京農工	7	4
一橋	2	2
横浜国立	12	11
金沢	2	2
福井	1	1
山梨	2	1
信州	6	4
静岡	2	2
名古屋	2	2
大阪	1	0
神戸	1	1
高知	1	1
九州	1	0

【公立大学】

合格者合計22名
(現役生19名、既卒生3名)

大学名	合計	内現役
国際教養	1	1
高崎経済	1	1
首都大学東京	7	7
神奈川県立保健福祉	2	1
横浜市立	7	6
都留文科	1	1
静岡県立	2	1
滋賀県立	1	1

【私立大学】

合格者合計941名
(現役生712名、既卒生229名)

大学名	合計	内現役
酪農学園	1	0
国際医療福祉	4	3
城西	1	0
文教	2	2
青山学院	44	37
亜細亜	1	1
桜美林	2	1
大妻女子	4	4
学習院	15	11
北里	30	24
共立女子	2	1
杏林	3	3
慶應義塾	20	16
工学院	10	6
國學院	18	16
国際基督教	1	1
国士舘	2	2
駒澤	26	25
駒沢女子	2	2

大学名	合計	内現役
産業能率	3	1
芝浦工業	27	19
順天堂	4	4
上智	25	17
昭和	1	0
昭和女子	6	6
昭和薬科	9	7
成蹊	7	0
成城	11	9
聖心女子	2	2
清泉女子	1	1
専修	39	24
玉川	11	11
多摩美術	7	7
中央	68	54
津田塾	3	3
帝京	3	3
帝京科学	1	1
帝京平成	1	0
東京海	20	13
東京家政	1	1
東京経済	2	1
東京工科	1	1
東京工芸	2	2
東京女子	4	2
東京電機	4	2
東京都市	34	18
東京農業	46	40
東京薬科	8	6
東京理科	20	17
東洋	6	3
日本	51	40
日本社会事業	1	1
日本獣医生命科学	3	2
日本女子	10	9

大学名	合計	内現役
法政	59	44
星薬科	8	4
武蔵野	4	3
武蔵野美術	2	1
明治	80	56
明治学院	13	12
明治薬科	2	1
明星	7	6
立教	24	20
立正	2	1
和光	1	0
早稲田	49	37
麻布	6	4
神奈川	15	10
神奈川工科	5	3
鎌倉女子	4	4
関東学院	6	4
フェリス学院	2	2
横浜薬科	1	0
長浜バイオ	1	0
同志社	3	3
立命館	6	4
近畿	8	8
立命館アジア太平洋	3	3

校種別の進路

	男子	女子	合計
4年制大学	121	111	232
短期大学	0	0	0
専門学校等	0	1	1
就職	0	0	0
進学準備・その他	53	25	78
合計	174	137	311

舞い踊る、 体育祭

毎年、「異常気象」という言葉が耳にするが、本年は「今年最も強い台風」という言葉が聞こえてきた。夏は猛暑、秋は台風。学校行事が盛んな本校にとって、天気予報に目が離せない1年になった。体育祭前、雨雲が漂う暗い雰囲気にも負けず、ダンス練習をする声が校舎に響く。上級生が下級生を導くその姿は晴々としていた。

体育祭の後、本年も後夜祭が開催された。たくさん生徒がフォークダンスに参加しており、生徒の充実した姿をみることができた。体育祭の結果は、応援合戦は赤団横断幕は青団。Tシャツは白団。そして競技総合では黒団が1位であった。

9月6日。体育祭当日。台風は昨晩のうちに過ぎ去り、無事本番をむかえることができた。会場は昨年と同じ城山競技場である。最初の競技は2人3脚リレーだった。その次に行われた部活動対抗リレーは本年度新たに追加された競技である。男女別、各部7人の生徒が参加し、熱戦を繰り広げた。恒例のフォークダンスは3年全員と2年女子の一部が参加。サザンオールスターズの曲が会場に鳴り響いていた。その後、応援合戦が行なわれた。紫団の「おぼけのパーティー！」から始まり、青団の「海賊くお宝めざしてヨーホー！」で締めくくられた。ダンス部門で優勝したのは赤団の「恋」。真っ赤に燃えあがる応援合戦であった。午後の競技ハリケーンではPTA団の雄姿もみられ、売店で生徒たちの水分補給を支援していただくと共に、競技も盛りあげていただいた。この場をかりて感謝申し上げます。



部活動の記録(平成29年後期～平成30年前期)

■全国大会出場 少年寺拳法部 全国高等学校少年寺拳法選抜大会 弁論の部 男子規定単独演武の部 女子規定単独演武の部 女子ソフトテニス部 国民体育大会ソフトテニス競技 少年女子 ▼競技かるた部 全国競技かるた学生選手権大会 E2級 ▼弦楽部 全国高等学校総合文化祭 器楽・管弦楽部門 ▼関東大会出場 少年寺拳法部 関東高等学校少年寺拳法選抜大会 男子規定単独演武の部 女子規定単独演武の部 ▼放送部 関東地区高校放送コンクール ビデオメッセージ部門 ▼弓道部 関東高等学校弓道個人選手権選抜大会 ■県大会 ▼陸上競技部 県高等学校新人陸上競技大会 男子走り幅跳び 女子ハンマー投げ 女子100m ▼男子ソフトテニス部 県高校ソフトテニス新人大会	優勝 3位 出場 出場 3位 出場 4位 5位 6位	個人戦 ▼弓道部 県青少年武道錬成会 女子個人 男子個人 県高校弓道新人大会 男子団体 ▼山岳部 高校総体・関東高校登山競技大会県予選 ▼少年寺拳法部 県高等学校少年寺拳法新人大会 男子規定単独演武の部 女子規定単独演武の部 弁論の部 ▼美術部 県高等学校美術展 ▼放送部 県高校放送アンデパンダン大会 映像部門 ▼競技かるた部 渡辺雅大杯競技かるた大会 F2級 県高等学校総合文化祭かるた大会 初級者の部 ▼剣道部 県かるた選手権大会 D級 あすなろ剣道錬成会 三段の部 初段の部	優秀賞 2位 2位 1位 2位 2位 奨励賞 2位 2位 3位 優勝 優勝 準優勝 準優勝 ベスト8 ベスト8
---	--	--	--

至誠無息
堅忍不拔



創立明治33年(1900)
開校明治34年(1901)
神奈川県第二中学校



タイトルイラスト：矢島穂香さん(2年)

第30号

神奈川県立小田原高等学校
同窓会 榎友会連絡先

お城越え 二の丸から 山上に春一番

電話・FAX 0465-20-3281

メールアドレス

kenyukai@odako.org

私書箱 〒250-8691

日本郵便(株)小田原郵便局

私書箱15号

県立小田原高等学校同窓会

ホームページ <https://odako.org>

体育祭

2018

小田高祭



小田原高校同窓会 榎友会ホームページを
ご活用ください

小田原高校同窓会

検索



◀ 携帯・スマホから
住所変更等を連絡できます

メールは kenyukai@odako.org

同期会、地域・職域同窓会、部OB会などの開催案内をホームページに掲載し、広く参加を呼びかけることができます。

ホームcomingデーの開催の様子をはじめ、同窓会の活動や小田高の写真をご覧になれます。

ホームページから同窓会に住所変更を連絡したり、各種問い合わせをすることができます。

「八幡山」の原稿も募集中です。会費納入もお忘れなく!!